



千河岸貫一著

曰本立志編

一名脩身規範

板權所有

雙書房合梓

嘉根公  
立中學  
校印

志之兩達

榮利不求

馬玉

永原三月念五

福地源



日本立志編序  
真ニ世ニ益々  
凡以書ヲ著ス者久要ハ以テ世ヲ益スルニ  
リ以テ物ヲ利スル  
ルニアリ以テ風俗ヲ矯正スルニアリ詞章巧  
妙能ク時好ニ應シ為メニ洛陽ノ紙價ヲ傾ク  
ルノ著書アルモ苟モ世ヲ益シ物ヲ利スル  
効ナク却テ風俗ヲ紊リ世弊ヲ培養スルガ如  
キ事ハ余ハ秦帝ヲ地下ニ起シ文之ヲ焚カ  
シト欲スル近時書ヲ著スル者多クハ再

日本立志編 卷之一 序

俗ノ通弊ヲ逐フテ時好ニ投スルヲ專務トシ  
唯利ヲ射ルヲ目的トスルヨリ著書ニ生ス  
ル弊害亦大ナリ豈慨歎ニ勝ユヘケンヤ頃  
日櫻所干河岸君日本立志編ノ著アリ携へ来  
リテ序ヲ余ニ屬ス余受ケテ而ノ之ヲ讀ムニ  
我國今古哲人ノ言行以テ世ノ模範トナスベ  
キモノヲ撰録シテ附スルニ論評ヲ以テス其  
文巧妙其論正當人ヲシテ志ヲ立テシムルニ  
是亦モ亦シテ真ニ世ヲ益シ物ヲ利スルノ良

書ト謂フヘキナリ且夫レ此書ヲ著スル人ハ  
即チ日々操觚ニ從事スルノ新聞記者ニシテ  
其餘力能ク此ニ及ヘリ其氣力ノ壯ナル怠惰  
余ノ如キモノヲシテ亦志ヲ立テシムヘシ此  
書一タヒ出デハ其世道ヲ補フノ効歎カラザ  
ルヲ知ル是レ余ノ辭セズシテ一言ヲ爲ス所  
以ナリ

明治十三年三月僑居於浪華

藤田茂吉撰

俗ノ通弊ヲ述フテ時局ニ對シテ



明治十三年三月謝恩表

...

...

...

...

...

...

...

精言

曩々ニ敬宇中村翁ガ、自助論即チ西國立志編ノ譯アリ。其

書一々ニ出ル、人争テ之ヲ購フ、其書ヲ看者ヲシテ能ク一

讀ノ下ニ、剛毅耐忍ノ責ヲベク、勉強刻苦ノ重シク、ヘキヲ

知リ、感發興起スル所アラシム。維新以來洋籍ヲ翻譯スル

者、陸續梓ニ上ホリ、汗牛充棟スト雖モ、翁ノ自助論ノ如ク、

流播セシ者少ナシ。是化無ク、スマイルス氏ノ著タル、其歸

旨ハ、專ラ世道人心ニ影響シ、有爲ノ志氣ヲ振ヒ、自助ノ精

神ヲシテ、活潑ナラシメントスルニ在リ、字々句句、己ナ身

ヲ立テ家ヲ興スノ金言格論ニシテ、一モ閒話冗語ヲ録セ

シ者ニアラザルヲ以テナリ。若シ唯文章ノ婉麗ナル措辭

ノ巧妙ナルヲ以テ、空中ニ樓閣ヲ架シ、正中奇ヲ出シ、有中

無ヲ生之、變幻怪奇、以テ一時ノ聲譽ヲ博セントスルモノ  
ノ如キハ、假令人々相傳ヘテ之ヲ稱歎シ、洛陽紙價爲  
ニ騰貴スル事及ラモ、天下後世ニ至ルマデ、人々之ヲ傳フ  
ル者ニ非ス。六一居士ノ所謂啼鳥好音ノ耳ヲ過グルニ殊  
ナラザルナリ。是則チ古來文人詩客、太多シト雖モ、鉅匠  
大家其人ニ乏シカテ、天下雖凡、其天下後世ニ稱譽セラル  
ル者ハ、筆歌自ラ樂シ、議論文章、人々驚カスモノ無キハ  
顏回ニ及バザルト遠キ所以ナリ。然リト雖モ、言文ナラザ  
レバ傳ハラズ、亦人心ヲ感發スルニ足ラズ、彼自助論ノ如  
キ、其著固ヨリ金言格論、其譯語亦極當正雅ニシテ、文藻ノ  
婉麗ナル他ノ譯書ノ間、文意通暢シ難キ者アルヲ類シ、日  
ヲ構テワシテ語ル可キニアラス、是其書ノ世ニ傳播シテ、久

ク行ハル、所以ナルベシ。

余客年來餘暇アル毎ニ、我邦古來ノ事蹟ヲ諸書中ヨリ抄  
録シ、毎章其感觸セル意想ヲ附記シテ論評ニ充テ、頃積ム  
テ卷ヲ成シ、題シテ日本立志編トイフ。斯書固ヨリ文章字  
句ノ、讀者ヲシテ感發セシムルニ足ル者ナク、又世道人心  
ニ裨益スベキ、格言ヲ吐ク、ノ學識無ケレバ、唯古來ノ事蹟  
ヲ記述セルノミ。又彼スマイルス氏ノ自助論トハ、体裁稍  
異ナルナリ。

彼ノ自助論ハ、人々立志編ト稱スルヲ以テ、斯書亦彼ニ  
鉅釘摸擬セシ者ナルベシト思フ。人多カラン。然レモ、彼レ  
ハ、古人ノ事蹟ヲ掲ゲザルニハ非レモ、天ハ自ラ助クル人  
ヲ助クルノ理ヲ論ズルヲ以テ、通篇ノ脈絡トス。此レハ、毎

痛古來人士ノ事蹟ヲ舉ゲテ、以テ輓近ノ人情世態ニ比對  
シテ、評論スルニ止マル。一ハ自助ヲ以テ主論トシ、一ハ忠  
厚ヲ以テ本旨トス。西國立志編ハ、多ク學者工人ノ事蹟ヲ  
引ク。日本立志編ハ、首トシテ孝子節婦忠臣義僕、若クハ明  
主賢臣、若人勇士ノ事蹟ヲ掲グ。甲ハ人ヲシテ勉強忍耐、以  
テ身ヲ立テ家ヲ興セシメントスルニ在リ、乙ハ風俗漸ク  
奢靡ニ赴キ浮華ニ流ル、ノ弊習ヲ矯ルノ一端ニ供スル  
ニ在リ。故ニ斯書ヲ立志ト名クル所以ハ、孟子ノ所謂、積夫  
モ廉ニ惰夫モ志ヲ立ツル云々ノ語ニ根據ス。古來忠厚謹  
謹、而忍困苦セル人ノ風ヲ聞テ、起ツ者アラニテ庶幾スル  
ノ意ヲ寓ス。名ハ則チ相似タリト雖也。主義トスル所異同  
ナルハ此ノ如シ。

人アリ或ハ言ハシ、人ノ志氣ヲ獎勵スルニハ、既ニ自助論  
ノ在ルアリ。何ソ學藝技術未ダ大ニ開ケザリシ、我邦ノ事  
蹟ニ就テ、云々スルヲ須クンヤト。余以爲ク然ラズ。夫レ我  
邦固有ノ忠厚ナル風尚ヲ振起シ、之ニ申サヌルニ、西人ガ  
忍耐強毅ノ氣風ヲ以テセバ、其富強文明、遠ク歐洲諸邦ニ  
陵駕スルノ日アルヲ期スベシ。若シ然ラズシテ、泰西剛毅  
堅忍ノ習俗ヲ學ブノミニシテ、古來ノ良風美俗タル、忠厚  
易直、儉素、謹愼等ノ氣象ハ、漸ク地ヲ掃フニ至ラバ、則チ左  
手ニ得テ右手ニ失シ、一歩ハ進モ一歩ハ退クト、何ソ殊ナ  
ラシヤ。是レ余中村翁ノ諱セル者ト、其体裁ト主義ヲ異別  
シ。日本固有ノ良風美俗ヲ記述スル所以ナリ。庶幾クハ讀  
者コシテ、風節ヲ勵マシ、行義ヲ慎マシムルノ一助クラン

曰ヲ故ニ一ニ修身規範ト名ケ、今書房ノ需メニ應シテ、集  
 棗ニ災スト雖氏、其世ニ流傳スルト否トハ、固ヨリ豫期ス  
 ベカラサル所ニシテ、彼自助論ト並ビ行ハル、ノ釣量ナ  
 キヲ知ル、然リト雖氏、今世ノ文人學士ガ、動モスレバ間語  
 ヲ綴リ、聞書ヲ撰ミ、聞錢之ヲ購フ者ヲ待ツニ比スレハ、稍  
 優サル所無キニ非ルヲ信ズ、刻成ルニ及ビ、卒然筆ニ垂シ  
 テ、本編撰述ヲ皆趣ヲ略記シ、以テ緒言ト爲スト云爾、  
 蓋シ此書ハ、（以下略）者識  
（以下略）

日本立憲編卷二目次

節儉ノ部

- 第十ノ節 倭ヲ尚ブハ修齊治國ノ要務タル事ヲ叙ス 二丁
- 第一 後三條帝ノ聖斷 四丁
- 第二 源賴義日置九郎ヲ叱責セシ事 五丁
- 第三 源賴朝筑後守俊兼ヲ戒メシ事 六丁
- 第四 松下禪尼手ツカテ亮隔ヲ糊補セシ事 六丁
- 第五 北條時賴儉素ノ事 六丁
- 第六 楠正成北條氏ノ亡ブルヲ知ル事 七丁
- 第七 黒田如水銀百枚ヲ取ラガリシ事 八丁
- 第八 家康公恭儉ナリシ事 十二丁
- 第九 井伊直孝衣ヲ乞フ事 十三丁

第十 紀州侯頼宣ノ生母莊資ヲ捐テ、士ヲ養フ事

十四丁

第十一 水戸黄門光國ノ金言

十五丁

第十二 岡野左内貨殖ヲ好ミシ事

十七丁

第十三 備前侯光政軍鞋叔ヲ逐ヒシ事

十八丁

第十四 酒井侯忠清補綴セル相服ヲ服セシ事

十九丁

第十五 土井利勝零絲ヲ棄サリシ事

二十丁

第十六 備前侯綱政紙ヲ愛ム事

廿二丁

第十七 家忠公ノ乳媪本多正信ヲ而斥セシ事

廿三丁

第十八 青木民部少輔絹ノ衾褥ヲ謝セシ事

廿四丁

第十九 大河内金兵衛松平信綱ヲ訪フ事

廿五丁

第二十 酒井忠貞綿衣ヲ以テ納徴トセシ事

廿六丁

第廿一 酒井田喜六側商ヲ以テ命ヲ奪ニシ事

廿七丁

第廿二 綾部道弘其子ノ管修ニ習フヲ懼レシ事

廿八丁

第廿三 奥貫五平次飢民ヲ賑恤セシ事

廿九丁

第廿四 大黒屋善兵衛橋本某ヲ感悟セシメシ事

三十丁

第廿五 釋月仙貧鄙ノ誦リヲ避ケサリシ事

三十一丁

第廿六 春夫八歳ガ達ナル事

三十二丁

第廿七 狂生田某ヲシテ禍ヲ免カレシメシ事

三十三丁

第廿八 新見屋新右衛門少女ヲ救ヒ禍ヲ免カレシ事

三十四丁

○第廿九 山中某眼恤ヲ以テ老境ヲ慰ムタル事

三十五丁

第三十 菊池孝兵衛儉朴ニシテ窮乏ヲ憫ミシ事

三十六丁

第三十一 川北梅山儉素自ラ守ル事

三十七丁



四方ニ至ルモ猶亦美酒鮮肴ニ醉飽スルガ如キモノナラ  
シヤ。必ズ家道ヲ以テ此ノ如クスルニ足リアルニ由テナ  
リシハ推知スベシ。孟子ガ富歳ハ子弟賴多ク凶歳ハ子弟  
暴多クト云ヒ邦誅ニモ貧ハ盜ミトイフガ如ク人ハ其生  
活ノ榮枯ニ由テ善長トモナリ暴惡トモナル者ナリ。而シ  
テ其衣食ノ足リ仰事俯畜ノ資ニ闕之ヲ誦フルヲ無キヲ  
欲モベシ。自ノ生業ニ勉カスベキハ勿論ナリト雖氏平生  
ニ節儉ヲ守ラズンバ刻苦焦勞シテ得タル所モ奢侈ニ爲  
メニ消散シテ踪形ヲ留メザルノ事ナラズ。錢一有積ム  
爲スニモラシ。其國ニ英クハモ亦然リ。故ニ富強ニ由リ  
シテ國富クバ兵ハ亦強ク兵ハ強クハ國ハ以テ強政ノ  
困難ノ事ナリ。然レバ則チ家ノ收貯ニ國ノ存亡

其所以ハ惟儉素ヲ高ブ事否ラザルトニ在ルノ事斷ク  
ナト雖也。節儉也者ハ吝嗇ト也。易キモノニ至リ世に性ト  
吝嗇ニ過リテ子孫ヲ壓抑シ身死ニテ幾クモ無ク。湯子ノ  
爲ニ耗散セテ所謂長者三代トイヘル類多クカラズト  
也。是正理ニ違ヘル所爲ヲ以テ積聚シテ散スルヲ知  
ラズ自ラ怨ミノ府トナルヲ省セザルニ由レリ。節儉ノ  
美德ト思ヒ知ラズ識ラズ吝嗇ノ禍根ヲ培養スルヲ以テ  
其素望ト反對スル結果ヲ収ムルニ至ルベシ。察セスシベ  
アル可カラズ。語ニ曰ク若有周公之才之美使驕且吝其餘  
不足言止已ト。聖人既ニ然リ況ヤ其他ヲヤ。  
第一 後三條帝ノ聖斷  
後三條院天皇ハ剛健嚴明稱シテ英主ト爲ス。即位ノ初ニ

當其弊ヲ矯メシト欲シ嘗テ石清水ニ幸ス都人七女出  
テ入幽薄ヲ觀ル車金飾アレバ則テ帝爲ニ登ヲ駐メ命シ  
テ盡テ別去セシム後ヲ加茂ニ幸ス復タ金飾車ヲ見ス御  
扇繪柄草紙ヲ用井青魚頭ヲ多リ胡椒ヲ登リ以テ御膳ニ  
之其檢亦此ノ如シ故ニ俗淳樸ニ返リ皇綱再ビ張リ  
彈下肅然タリ

櫻所子曰ク古來創業ノ英主守成ノ名臣恭儉ノ徳ヲ修セ  
以テ治世安民ノ業ヲ全フセザルハ無シ是則テ欲テ繼  
三帝情は肆ニシ奢修華麗ヲ競フハ衰微ノ本ニシテ節儉  
質素ノ典隆ヲ基ナルヲ以テリ故ニ唐ノ太宗ハ儉約ヲ  
素終始渝ヲ父ト認リシ魏徵ノ上疏ニセ第十二節儉慎川

ト謂フ要スルニ名も賢臣ノ見ル所中外同軌ト占ニ轍  
ルヲ知ルニ足レリ恭ク性ミルニ我邦開闢以來萬世一系  
ノ皇統ヲ奉戴シ敢テ非望ヲ企ル者ナキ所以テ天威  
ノ赫々タル他邦ニ地類ヲキヲ以テニアラズヤ而其  
天成ノ赫々タルハ則チ皇恩ノ四海ニ浹洽スルモ亦萬  
邦無比ナルヲ以テナリ而其威雷運ノ如ク其恩雨露ノ  
如ク政令教化雲行々雨施々君民ノ誼永ク易ハラザル所  
以テ列聖恭儉ヲ事トシタマフニ由ル之ニ因テ國史記  
スル所歷朝ノ聖蹟ハ每篇漢文ノ紀ヲ讀ムカハ如クナリ  
トハ既ニ山陽頼翁ノ謂テ所ノ如シ今謹ムテ延久ノ朝ニ  
於ケル一聖蹟ノ事ヲ記スルハ國史既ニ詳カニ歷朝ノ  
聖蹟ヲ載ヒ世人普ク感仰スル所ナルヲ以テナリ

我が戴聖至仁ナル。今上天皇ハ。風トニ復古ヲ鴻基ヲ運  
テサセタマフ。其俊徳偉烈名クベキ無シ。而シテ太平遊惰  
ヲ剪テ。萬歳ヲ尊大。驕奢ノ風俗ヲ矯革シ。夫ハ鐵道ヲ新  
築シ。電線ヲ架設シ。若クハ兵艦ヲ製造スルガ若キ。官民ノ  
使ヲ得。國家ヲ保護スル爲メニハ。官帑ヲ傾ケラル。モ。東  
京宮城ノ袋スルハ。既ニ數年ヲ經ル。猶小之ガ經營ヲ  
猶豫メ。マ。ヘ。更ニ勤儉ノ詔ヲ下シ。供御ヲ減セラル。  
ルニ至ルモ。延喜天曆ノ聖代ト雖氏亦此ノ如クナル  
ニ過ギザルベシ。誰カ感戴シタテマツラザル者アラシヤ。  
然レ。則テ我カ帝國ノ人民タルモノ。宜ク此勤儉ノ聖  
旨ヲ奉體シ。質素ヲ奉トシ。產業ニ他カシ。皇化ノ萬一ヲ  
裨補シ奉ラザルベカラズ。然ルニ節儉ノ限。漸ク奢靡ニ

趨ク。弊ニ染着シ。動モスレバ麗衣鮮食ニ飽歟ヲ取  
トスル。急ナルガ爲メニ。已レガ分ヲ遺レ。遂ニ庫ヲ破リ  
家ヲ喪ナヒ。志操ヲ挫ギ。廉恥ヲ顧ルノ遺ナキニ至ル。可  
ゾ。聖主親カラ宸殿ニ率先シテ。勤儉ヲ事トセラル。ノ  
朕旨ニ感激スル。是純ナルヤ。是レ我カ古來ノ事跡ニ  
過當シ。節儉ヲ尚フハ。修齊治國ノ要務ナル所以ヲ叙述ス  
ルヲ以テ。斯書ノ首篇ニ措ク所以ナリ。希クハ鄙俚ノ文辭  
ト雖氏亦風化ノ萬一ヲ裨補スル所アラムトナリ。  
第二 源賴義日薨九郎ヲ叱責セシ事  
源賴義奥州ノ役ニ赴キシ時。其軍ニ從ヘル兵ノ中ニ。近江  
ノ人日置九郎トイヘル者アリ。甲冑其他軍裝太ク華美ナ  
リ。カハ。賴義之ヲ視テ色ヲ變シテ曰ク。惜ムハ。狀如カ

九郎唯マ  
八陣營ニ於テ入スルハ勿レ。敵營ニ賣與スルハ九郎唯マ  
其子テ退ク。他日亦美麗ナル軍裝ヲ爲シテ陣頭ニ立ツ。其  
美麗前一藏ビ。賴義怒テ曰ク汝ガ猶ホ身ヲ亡ボス。ハ  
曉トテザルヤ速ク一人一賣與セヨ。着ハベカラスト。而ソ  
他日黒織甲ヲ着セリ。甲舊物ニ屬ス。賴義之ヲ視テ喜ヘル  
色アリ。曰ク喜慶喜慶軍裝ヲ美麗ニスルヤ。財ヲ費セ  
バ家爲メ貧シク勇士ヲ養フベキ。資力無ク敵ヲ逢ハ  
七ビ易キモナリト。

櫻所子曰ク賴義義家多年遠征シ。遂ニ奥羽ヲ平定スルコ  
リ以來東國ノ民源氏ヲ仰グ。一父母ノ如シ。而シテ其裔孫賴  
朝涼竄ル身ヲ以テ奮然手ニ唾シテ起シ。東國ノ武士皆僊

其此ノ如キ。故ス所以ノ本ヲ原スルニ。節儉ヲ事トシテ  
衣服飲食ニ非テ。勇力ハ士ヲ養フタリ。財ヲ愛マハ  
リシニ由ルヤ必セリ。何トナレハ。其日置九郎ノ告ケルノ  
一語ヲ以テスルモ。何ゾ自家ノ節儉ヲ責ハサルノ理アラ  
ムヤ。又何ゾ其子義家ヲ訓誨スルニ。節儉ヲ主トシ。勇士ヲ  
養フノ事ヲ以テセザルヤ。

第三 源賴朝筑後守俊兼ヲ戒シメテ事

源右府賴朝或時筑後守俊兼ガ美麗ナル衣服ヲ服シテ。政  
廳ニ出タルヲ視。怒ル。甚シ。即チ起テ俊兼ヲ副リ。執用  
其儀。對テ曰ク汝ヲ常服(千葉倉真平土肥二郎)視

彼等、武技、長、短、刀、槍、文、學、一、切、リ、ト、雖、此、節、  
儉、ヲ、守、ル、ガ、上、ニ、家、富、ミ、多、ク、テ、家、計、ヲ、養、フ、汝、ヲ、体、裁、彼、  
等、ニ、比、儉、心、ヲ、得、ス、而、シ、テ、華、美、ヲ、好、ム、節、儉、ヲ、知、ラ、ザ、ル、  
ハ、則、チ、財、産、ヲ、使、用、シ、テ、方、法、ニ、暗、キ、ニ、由、ル、汝、チ、ハ、文、才、  
ハ、ト、雖、心、未、知、是、非、得、失、ヲ、辨、ビ、ザ、ル、ヤ、ト、大、ニ、叱、責、セ、ラ、レ、  
ル、爾、時、滿、繼、ノ、諸、士、之、ヲ、聞、キ、各、恐、悚、シ、テ、措、ク、ト、コ、ロ、  
ヲ、  
櫻、所、子、曰、ク、汝、チ、ハ、文、才、アリ、ト、海、氏、未、口、是、非、得、失、ヲ、辨、ビ、  
テ、  
足、リ、若、シ、源、右、相、ノ、シ、テ、今、日、經、濟、家、ニ、以、テ、自、己、ノ、身、  
ハ、  
最、大、制、出、ノ、家、政、ヲ、整、理、ス、ル、ヲ、知、ラ、ズ、偶、得、ル、所、ア、レ、ハ、之、

ヲ、弊、色、ノ、タ、リ、ニ、消、耗、シ、通、リ、賢、ス、テ、若、門、一、端、ル、カ、如、キ、ヲ、  
視、セ、シ、バ、將、々、之、ハ、何、ト、カ、謂、ハ、ス、

第四 松下禪尼手ツカフ處隔ヲ糊補ヒシ事

松下禪尼ハ安達氏、秋田城介景盛ノ女ニシテ、正徳時頼、  
母ナリ、嘗テ時頼、病ノニ食ヲ取ク、禪尼、  
ヲ、經、營、ス、尼、方、ニ、手、ツ、カ、フ、處、隔、ヲ、糊、補、シ、義、景、  
曰、ク、請、フ、人、ヲ、命、ジ、テ、之、ヲ、爲、セ、ト、尼、備、シ、テ、義、景、曰、ク、之、  
補、フ、ハ、之、ヲ、新、々、ニ、ス、ル、ノ、勞、ヲ、省、ク、ニ、若、ク、ス、ト、尼、蒙、シ、テ、  
曰、ク、我、ハ、豈、ニ、之、ヲ、知、ラ、ザ、ラン、ヤ、凡、ソ、物、小、損、アル、早、ク、之、  
ヲ、補、ヘ、バ、則、チ、大、壞、ニ、至、ラ、ズ、シ、テ、止、ム、今、此、小、損、改、メ、  
テ、新、々、ニ、ス、ル、ハ、奢、侈、ヲ、以、テ、少、年、ニ、示、ス、ナ、リ、上、義、景、蒙、然、  
タ、リ、テ、曰、ク、吾、妻、ハ、若、ク、シ、テ、  
六



北條入道高時ハ宴會ナル毎一酒九献マレハ下物九種ハ  
ルヲ要ス、諸正成之ヲ聞キ人ニ語テ曰ク北條氏マナニ久  
シカチズ、シテ亡バ可ニト。

櫻所子曰シ、酒九献下物九種、今ヨリシテ之ヲ視レハ、尋常  
平民ト雖也、亦猶奢トスル所ニマラズ、況ヤ高時ハ天下ノ  
執權ニ非スヤ、何ゾ太ダ驕侈ナリトセシヤ、然リト雖也、松  
下禪尼、自ラ亮隔ヲ糊補シ、第五條ヲ視ヨ、最明寺時頼、  
一鉢ノ酒ヲ酌ハニ、殘膏ヲ以テ下物トシ、第六條ヲ視ヨ、或  
ハ青砥藤網リ、一錢ニ撈ハシメタル等ヨリ視レハ、九献九  
種亦太ダ奢侈ナルヲ以テ、楠公、烟眼早ク其亡滅ヒン  
ト看破セシ、シテ、トラス、昔時負素、風亦想フニキナ  
リ、今日白面、書生乳臭、少年行武シテ食マハ者ト雖也、

亦間、娼門酒肆ニ過ギリ、數名、歌書ヲ贈シ、洋藤十千ノ酒  
ヲ傾ケ、絲竹喧嘈、歌舞ヲ描カマ、盛宴ヲ開ク、謂ツベシ  
布衣、主ニシテ、其驕奢ハ北條入道高時ヲ緊固ス、ト其志  
操ヲ挫折シ、學業ヲ放棄シ、遂ニ父母ノ憂ヲ貽スベキハ、楠  
公其人ノ智ヲ待タズシテ看破スルヲ得ベシ、夫レ各自ノ  
材能ヲ以テ各自ノ嗜好ヲ遂ケ、各自ノ快樂ヲ取ルハ、固ヨ  
リ各人ノ自由ニシテ、他ノ干渉ヲ得ベキニ非ズト雖也、亦  
各自其分ヲ知ラズンバアル可カラズ。

第七、黒田如水銀百枚ヲ取ニサリシ事

豊公征韓ノ事アルニ際シ、日根野備中守ヲシテ、廻廷ニ使  
ヒシム、備中守甚タ貧困ニシテ、其旅裝ヲ辨スルノ資無シ、  
偶、三好新右衛門ヲ紹介トシテ、銀百枚ヲ黒田如水一借レ



畫閣三會同。華筵銀燭。以山海、美味ヲ排列シ。翠酒紅  
襪。歌呼機舞。地カスノ一。大盛宴ヲ開ク。以テ例トス。一會  
費。所無慮數十金。人ニ語テ曰ク。我敢テ奢侈ニ耽ルニ非  
ス。交際上巳。今ヲ得ザルナリト。其交リ泛リモ。ハ此ノ如  
キ宴會ニ招カル。ヨ。殆ンド虚日無シ。何ゾ宴會ノ太盛  
ナルヤ。而シテ此輩亦其仰事俯畜ノ爲。ニ費スル所。或ハ  
關系ヲ許フルナキニ非ズ。亦何ゾ親戚朋友ヲ助ケルノ餘  
カアランヤ。故ニ其貸ス所百金ニ盈タザルモ。ヲモ借テ  
還サザルヲ憤リ。昨ノ親友。今ノ仇讎トナルアリ。或ハ骨肉  
ノ間ニ於テ狀師ヲ倩フテ。法司ノ裁斷ヲ請フアリ。治々ト  
シテ天下ニ大譏ヲザル無シ。是他ナシ。俄令親朋ノ災厄ニ  
遭遇ス。ハコト下リトモ。平素交際ノ爲。ニ費ス所過多ナル

ヲ以テ。之ヲ補助スルニ由チキナリ。特リ之ヲ補助スルニ  
由チキノミナラズ。淳薄ノ世情。人若シ一蹶セバ。之ヲ陪附  
ニ擠倒シ。而シテ石ヲ下ダリントス。抑モ此ノ如キヲ致ス  
所以ノ者ハ。風俗漸ク奢侈ニ流レ。平素ノ交際ニ消費スル  
所多ク。隨テ交際ノ外ニモ。亦屯費濫用多キニ至ルヲ以テ  
ナリ。夫レ外ニ伸ザル所アラントスレハ。内ニ縮ムル所ナ  
カル可カラス。彼レニ獲ナル所アラントスレバ。此ニ急テ  
ル所ナカレズ。カテザルハ。自然ノ數ナリ。人各其ノル所ニ  
限リアリ。莫ゾ内外彼此。共ニ滿溢ナルヲ得ンヤ。愚田如水  
ノ智且。以テ富テ。此ノ如クナル能ハス故ニ。其友ニ接ス  
ルニ。義ヲ以テシ。變ニ處スルニ。財ヲ變シ。ザル爲ニ。ハ平素  
客ヲ饗スルニ。綱ノ骨ヲ以テスルハ。儉素ヲ守ラザルニ。得

ズ。況ヤ其智其福。如水其人。一若カザルモ。ノヤ。然レハ則  
チ。貴族豪族ト雖モ。猶ホ儉素ヲ守ラズンバ。其家ヲ敗ル何  
況ヤ寒士貧生。猶ホ交際ノ爲メニハ。貲費濫用ヲ吝マサル  
ヲ以テ。名譽ノ如ク思倣ス者アルニ於テ。是其友ニ接  
スルニ。信義ヲ失シ易ク。疾病事故アルニ逢ハバ。措ク所  
失シ。尾ヲ控カシ耳ヲ怙レテ。人ノ憐ミヲ乞ヒ。廉耻地ヲ掃  
ヒ。浮薄俗ヲ成シ。其嗜欲ノ爲メニハ。金銀ヲ視ルヲ泥土ノ  
如クシ。信義ノ爲メニハ。之ヲ視ルヲ寶ト。如クスルニ至  
ル所以ナリ。宋ノ李沆ハ一代ノ賢相ナリ。人ニ語テ曰ク。魯  
論ニ所謂用ヲ節シテ人ヲ愛ス。一語ハ我レ身ヲ終アル  
マテ行フモ。盡スヲ能ハズ。嗚呼如水モ亦善ク用ヲ節シ  
テハ。進クト謂スベキナリ。今世ノ人ト以テ如何ト爲ス。

第八 家康公茶會ノ事

家康公ノ喉府ニ在リ。近臣某美艷ナル袴ヲ着ケテ。公  
前ニ出タリ。公其名ヲ問フ。曰ク茶中ト名クルモツレリ。  
公艶然ト色ヲ變シテ曰ク。汝ヲ我レ。女ニモ未ダ知ラサル  
美艷ノ服ヲ着ケルハ。何事ナリ。天下久シク亂レ。萬民塗炭  
ニ苦ミシモ。近來漸ク平和ニ趣ク。然ルニ早クモ驕侈ノ心  
ヲ生ズルハ。是レ亂ノ端ナリ。汝チカ如キ奢侈ヲ好ム者  
我が左ニ居ク可カラズト。痛ク叱責セラレタリ。  
英勝院(女房ノ名)或時公ニ上言シテ曰ク。公常ニ澣滌ヲ  
衣ニ服セテ。心ト雖モ之ヲ賤視シシテ澣滌ハシムルモ。憚  
リアリ。侍女ヲシテ澣ハシムレバ。柔護ノ手指血流ル。ニ  
至リ。太刀難色アリ。澣衣ヲ服セラレサレモ可トラズ。

公之ヲ聞キ曰ク婦女ノ理ヲ解セザル之ヲ言フモ益ナク  
ル可シト雖トモ諦カニ我カ言ヲ聽ク御事ハ職有ハ於座  
ハテハ視テモ其多キニ駭ク可シ京都大坂其他ハ地方  
於分ルモ亦合座テハ布帛ハ山積メ故一日百匹ヲ服シ  
ルリハモ其足ヲナルヲ憂ヘス然リト雖氏子孫萬世ノ爲  
メ天下衆庶ノ爲メヲ思フガ故ニ常ニ薄衣ヲ服ス何  
レバ天道ハ幸傷ヲ惡ムモノナレバナリト  
公或時一室ニ入リシトシテ其袴ヲ亮隔ノ鈎懸ニ掛ケタ  
リ公手ツカラ之ヲ以ツシ氣ヲ嘆シテ賦シ直シタレハ  
近臣輩見テ微笑スル者アリ而シテ後ヲ父近臣ニ語テ曰  
ク我ハ袴ヲ愛ム非ズ此袴ハ貧賤ナル婦女ノ辛苦ニ成  
ルシモノナリトテ其需用スル所ノ品物ハ如何ニテ

成リシヤヲ知ラバハ心斷小禽獸ニ均シ故ニ恒ネニ四思  
ヲ思ハスニハ世ヲ治ムルトヲ得ベカラズト  
公曹臣關白ト和スルノ年濱松城ニ在リ一日寒風凜烈タ  
リ即チ左右ニ命ジテ外套ヲ致リシム侍醫近藤繼嗣一補  
被ヲ進ム即チ豐關自ノ贈ル所紅梅鶴童光彩目ヲ奪フ公  
驚蹙シテ曰ク烏ソ此華麗ナル者ヲ用中ハ吾レ昔テ豐  
家ニヒムヲ得ズシテ一夕ビ之ヲ着ス今豈ニ再ヒ着シ以  
テ我家朴素ノ風ヲ破レ可ケンヤト更ニ他ノ婦挂ヲ呼テ  
之ヲ服ス

櫻所了曰ク易ニ曰ク節スルニ制度ヲ以テス財ヲ傷ラズ  
民ニ害ヒス礼記ニ曰ク入ルヲ量テ出ルヲ爲スト經濟  
ノ學タル深遠廣高ナリト雖氏其要此ニ外ナラズ而シテ

世人モ亦此理ヲ知ラザル者ナシ。而カレ氏之ヲ實際ニ行  
フハ太ダ難シ。何トナレハ、衣服飲食宮室ヨリ、玩好・器具  
ニ至ルマデ、人欲ハ限り無クシテ、財用ハ限りアリ、限リマ  
ル財ヲ以テ、限リ無キノ用ニ供スレバ、則チ財竭キ民窮ス  
ルニ至ル。古來明君賢相ハ、皆チ能ク己レニ充テ、儉素ヲ行  
フ。即チ漢ノ文帝、百金ノ費ヲ愛ムテ、露臺ヲ作ラズ、上書ノ  
費ヲ聚メテ、帷幕ヲ製シ、幸スル所ノ夫人、衣地ヲ曳カサリ  
シカ。如キ。明ノ太祖、散騎舍人ノ衣服鮮麗ナルヲ見テ、其價  
ヲ問フ。五百貫文ト答フ。帝大ニ驚キ、五百貫ハ農夫數口ノ  
家一歲ノ資ナリ、是ヲ一衣ニ費ヤハ、驕奢太シト、痛ク譴責  
セラレシカ。如キ。傳ヘテ以テ歴史ノ興談トシ、人口ニ膾炙  
ス。善哉。德川氏ノ起ル。億萬ヲ以テ中成ノ王統トシ、禮家

ノ豪奢ヲ學バズ、子孫ノ爲ノ承應ノ爲メ、計畫スル所  
目ニ遠キハ、漢文、明祖ニ胆ドス。是則チ三百年間  
雖バシ所以ノリ、而シテ其衰運ニ趣クワ、晉後、事トシテ  
靡盛、乏シテ、累徴益甚シク、賭博公行シ、紀綱紊亂シ、國力尙  
弊シテ、亦如何トモス可カラザルニ及ベリ。節儉ハ晉後ト  
シテ、洛亂興亡ニ關スルヲ此ノ如ク、赫トシテ火ヲ視ルヨリ  
モ明カナリ。天下ノ大チ保有スル尚ホ且ツ然リ、況ヤ士族  
人ノ小財在チ所有スルモノヲヤ。苟モ儉素ヲ守ルヲ爲  
サズ、奢侈淫靡ヲ事トスルアラバ、志氣之力爲ニ折テ、信義  
之ニ由テ泯ビ、亡身敗家立トコロニ至ラン。何ゾ其他ヲ、頌  
ルニ暇アラムヤ。

第九 井伊直孝衣ヲ乞フタル事

井伊直孝、大坂ノ陣營ニ在リ、時寒冬ニ屬ス、一日二人ヲ遣シテ斥候トス、歸路雨ニ逢ヒ、滿身濕濡ヒリ、直孝其衣ニ領ヲ脱シテ、二人ヲ與フ、而シテ之ニ換フルノ衣無シ、人ヲシテ安藤直次ニ換テヨモハシテ曰ク、僕ガ附身ノ故衣ハ雨ニ逢フテ歸リタル家七ニ與ニ換ハ、服ハ必キ衣無シト、而シテ直次ノ贈ル所ノ衣ヲ穿テ、革袴ヲ着テ、屢將車前ニ出テタリ、

**附記** 井伊直孝ノ到セラレタル彦根ハ、畿甸ニ近接シ、琵琶湖舟楫ノ便アリ、屢京洛ニ來往スルヲ得ルニ以テ、元和儼武ノ後ヲ以テ、其歸土ノ風潮ヲ奢侈ニ赴キ、美艷ナル衣服ヲ好ム、直孝其風俗ヲ矯正スヘキ事ヲ思惟シ、江戸ヨリ歸營ニ上ルニ、前後者ノ款ヲ計リ、綿衣ヲ裁セシメ、而シテ彦根

ニ達スルノ日、早晨旅館ニ於テ、從者ニ之ヲ分テ張ルナリ、彦根ノ上、出テ、候駕ヲ迎フルモノ、各該服ニテ城外ニ鶴行鷹川ス、前發ノ土盡ク綿衣ナルヲ聞テ、少ク惟ハ色アリシニ、直孝ハ、輪窓ヲ開キシテ、望視スレバ、頗ル垢穢ナル綿衣ヲ穿テタリ、諸士、漸汗背ヲ決ホシ、其服ニタテ、美眼ヲ裂カシテ、歎スルハ、思ヒアリ、爾來華美ヲ好ム、漸ク地ヲ拂フニ至レリト、

櫻所子曰ク、今甲ノ形狀ヲ以テ視レバ、假令昔時質素風ヲ成セシト雖、凡二十萬石ノ封土ヲ有シ、徳川代祖不ノ臣ノ此、井伊直孝其父ニシテ、衣ノ脱換スヘキモノ無カリ、而シテハ信シ難キが如クナリト雖、凡當時儉素、此ノ如クナリト想ヒ見ル可ク、物移リ星換リ、三百両ノ春秋ヲ度過

タル今日ニ於テハ、都會城邑至ル所羅綺ヲ認ヒ、錦繡ヲ  
翻シ、房座ヲ躡ハ、綴紋花ノ如ク、街衢ヲ望メ、華感樂ニ  
似タリ。今古變遷、情態仙凡境ヲ異ニスルカ如ク、是固ヨ  
リ昭代ノ恩波ナリト雖、亦華美ヲ專ラトシ、冗費濫用ヲ  
節減シ、以テ有益ナル事業ニ努力セズンバ、愛國ノ民ニ非  
レナリ。

第十 紀州侯賴宣ノ生母粧寅ヲ指テ、士ヲ養フ事  
紀州侯德川賴宣、生母曰阿萬ノ方ト曰フ、常テ人ニ語テ  
曰ク、諸公子ヲ愛シ、之ニ獻ズルニ、名劍寶器ヲ以テス、小  
ニ尋常ノ事、妾、以爲ク、國家ニ落身スル主將ノ寶ト  
スル者、名劍寶器ニテラスシテ、勇武ノ士ヲ得ルニ在リ、  
若シ、世事ニ於テ、除ヒバ、勇士ヲ會テ、將々何ヲカ恃ル

フヤ聞ク、塙團右衛門ハ、舊主人爲メニ、鋤セラレ、蹴蹴坎對  
ナリト、妾此人ヲ得テ、以テ、公子ヲ擁護セント欲ス、願フニ  
名劍寶器ニ勝ル者、予ゾヤ、乃チ毎歲受クル所、粧資五百  
金ヨリ、二百金ヲ除キ、之ヲ團右衛門ニ贈致ス、以テ他日、  
用ヲ待ツト。

櫻所子日久、裾釵衣帶ヨリ、以テ粧奩鏡匣ニ至ルテ、其華  
美鮮麗ヲ欲シテ、費用ヲ愛シマス、翻テ親戚朋友ニ贈遺ス  
ルニ至テハ、頗ル慳吝ニシテ、眉ヲ蹙メ、心ヲ捧クルニ至ル  
ハ、婦女人常態ナリ、縱使、韃索以來年ヲ閱ガル、昔日ニ於  
ケルモ、富メバ則チ必ズ驕ルハ、英雄豪傑ト雖、世逸カレザ  
ル所ナリ、然ルヲ况ヤ、婦女ノ身ヲ以テ、其脂粉ノ資ヲ指テ  
テ、國家ノ爲ニ勇士ヲ養フカ、如キコトヲ、紀侯賴宣、大資英

蓮、勇武ヲ以テ世ニ稱セラレ、蓋シ母族ノ薰陶ル所ニ由ルナルベシ、嗚呼、侯ノ生母、亦絶世ノ賢婦人ナル哉。

第十一 水戸黄門先國ノ金言

黄門常ニ其臣屬ニ訓誨シテ曰ク、天下國家ハリ、以テ度人ニ至ルマ、六節儉ヲ以テ最上ノ德行トス。今ヤ治平日久クシテ、上下恬熙、日ニ奢侈ニ赴キ、衣服飲食、宮庭器具ニ至ルマデ、競テ華美ヲ貴テ、故ヲ以テ一國ニ一家ニ、其費用殆シド支ヘ難カラントス。是レ在上ノ君子、富貴ニ生長シ、榮華ニ慣習シテ、心ヲ斯ニ用キラレザルヨリ、其風俗自カラ下モニ及ヘルナリ。殊ニ諂諛ノ爲メニスル進献ニ美麗ヲ極メ、厚遺其執事近臣ノ輩ニ及ビ、以テ鬻ノ塵ヲ拂フ。此風一タビ行ハル、ヨリ天下窮乏ノ基トハナレリ。況ヤ頌リニ

土木ヲ起ス、ヲ好ム世ニシテ、諸國ニ其費ヲ課セラレ、ガ故ニ、國主ハ之ガ爲メニ萬金ヲ捐ツ、國主歳用給セザルバ、自カラ士農工商ヲ雇ケテ其闕ヲ補ハザルヲ得スシテ、遂ニ一國ノ窮乏トナレリ。治平久シフシテ、此ノ如クナルニ至ルハ、古來皆然リ。縱使僻處ノ德ヲ慕フニ及バザルモ、止ムヲ無クハ漢文ノ節儉ヲ專ラトセラレシヲ以テ、蒙給シ人足ルニ至リシ、ヲ摸範トセラレシヲ欲スルナリ。士庶人モ各自ノ分ニ從テ、節儉ヲ守ラバ、則チ親戚朋友ヲ助ケ、其子孫ヲ教育スルノ資ニ乏シカズ。然レ凡、節儉ト吝嗇トハ混シ易シ、能ク此分界ヲ辨知ス、ハシ吝嗇ナルモ、ハハ上ニシテ之レヲ爲セ、則チ喪廉服ヒ、下ニシテ之ヲ爲セ、ハ則チ親戚朋友相協ナハズ。理ニ背キ、我ニ缺

クハ心ハル可シ  
櫻所子曰ク。此水戸黄門ノ訓誨ハ、年山細間ニ出タル所ニ  
シテ、別ニ巧妙ノ工夫ヲ説カレシ者ニ非ズト雖モ、殊ニ斯  
ニ掲タルモノ、識者ノ見ル所、千古同揆ニシテ、亦後動スル  
カラザルヲ示スノミ、夫レスチユワルト、ミルハ、歐洲ニ於  
テ經濟學士ノ翹楚トスル所ナリ、其經濟論ヲ著セルヤ、由  
ニ於テ馬鈴薯ヲ糶糶スルヲ以テ、凶荒ヲ豫防スルノ最上  
策タルヲ説ケリ、賢人君子ノ言ハ、平康ニシテ、怪奇人ヲ驚  
カス者ナク、真理ノ動カス可ラザル者、其中ニ存ス、今世ノ  
人士、動モスレバ、興産殖業ノ策ヲ談ジ、節儉ノ要務タルヲ  
知ラズ、害ヲ攘フコトヲ外ニシ、而シテ利ヲ興スコトヲ務メバ、  
國家ノ富強立ドコロニ致スベシト爲ス、殊ニ知ラズ、利ヲ

興スハ害ヲ除クニ若カサルコトヲ、夫レ財ハ天雨鬼輸ニ非  
ズ、天地間復タ何ゾ儉素ヲ守ラズシテ、富ヲ致スノ術アラ  
ンヤ、世ノ富國ノ策ヲ講スル人、請フ三思セヨ、

第十二 岡野左内貨殖ヲ好ミシ事

岡野左内ハ上杉氏ノ臣ナリ、景勝ニ仕フ、其封ヲ米澤ニ移  
スニ及ビ、去テ蒲生秀行ニ仕フ、食祿一萬石ナリシト云フ、  
左内恆ネニ貨殖ニ志シ、家巨萬ノ富ヲ致ス、而シテ大小判、  
及ビ他ノ碎粒等、金銀ヲ一室内ニ排列シ、以テ娛樂ト爲ス、  
毎月必ス二三回ニ及ブ、人聞テ之ヲ賤シム、偶隣閨相關ッ  
者アリ、人アリ來テ報ス、左内恰モ室内ニ在リ、黃白ヲ擲當  
スルニ暇マ無ク、直チニ往テ之ヲ和解シ、翌日ニ至テ返ル、  
黃白猶亦室中ニ狼藉タリ、衆始メテ其大變ナルニ厭ス、是

ヨリ先キ、關ヶ原ノ役アル。左内永樂錢一萬貫ヲ景勝ニ獻  
ジテ曰ク、敢テ軍需ヲ資クルニハ非ズ、聊カ以テ將士ノ勞  
ニ酬ヒシト。馬奴アリ、黄金一枚ヲ珍藏ス、左内大ニ之ヲ奇  
トシテ曰ク、人ノ心ヲ用ユル當サニ此ノ如クナルベシト。  
之ヲ賞スルニ十金ヲ以テス、仕ヘテ忠卿ノ時ニ至ル、其病  
革カナルヤ、金三萬兩ヲ忠卿ニ獻ジ、三千金ヲ以テ其弟忠  
知ニ獻ジ曰ク、以テ平素ハ息ニ報ズト、亦五金十金ヨリ、以  
テ百金ニ至ルマテ、諸友ニ遺賂スル各等差アリ、而シテ舊  
券ハ其楯トモニ之ヲ燒ク。

櫻所子曰ク、世ノ貨殖ヲ事トシ、素封ノ富ヲ致ス者ヲ視ル  
ニ、慳吝貪汚至ラザル所無キ者多シ、殊ニ知ラズ、貨財運動  
ノ妙機神算ハ、積ムテ能ク散ジ、國ヲ利シ以テ人ニ及ブニ

在ルヲヲ、左内ノ如キハ、頗ル貨財運用ノ妙ヲ會得スル者  
ト謂フヘキナリ、其券ヲ燒クガ如キニ至テハ、左内ノ  
點塵着カズ、清風洒々如ナリ、世ノ萬金ヲ積ムテ、而シテ券  
ヲ斗鍾ニ折ク能ハザル者、以テ如何ト視ルヤ。

第十三 備前侯光政等鞋奴ヲ逐ヒシ事

備前侯光政、或時城壕ニ洗ベル水禽ヲ彈射セント、家臣某  
ノ屋背ニ出テ、之ヲ窺フ、掌鞋奴門道ノ外ニ於テ其副刀  
ヲ脱シ内ニ入ル、光政歸ラントスルトキ、之ヲ見テ曰ク、何  
人ノ副刀ナルヤト、傍ニ在ル者答ヘテ曰ク、公ノ奴ノ帶  
ル所ナリト、光政色ヲ變シテ曰ク、絲ヲ以テ、靴ヲ繫ス、分ニ  
應セザルハ、華奢ヲ好ム者ナリト、直チニ其奴ヲ逐フ、此ヲ  
傳ヘ聞ク所、漸興僕隸等、渾テ其刀靴ヲ繫スルニ革ヲ以

テスルニ至レリ。櫻所子曰ク、備前侯ノ英明ナル、儒術ヲ尊ビ、藩士ヲ愛養シ、封内ノ人民ニナ其恩澤ニ浴セルガ如キハ、世人ノ過テク知ル所ナリ而シテ、玉帛禮幣ヲ尊フシテ名儒ヲ招キ、千鍾ノ禄ヲ愛マズシテ名士ヲ養ヒ、民ノ疾苦ヲ問ヒ赤子ヲ安ンスルガ如クセシモ、未ダ嘗テ帑廩ノ闕乏ヲ計ルルニ至ラサリシ者ハ、他無シ。公が自ラ奉ズル太<sup>ク</sup>薄<sup>ク</sup>シテ、士風ノ太平ニ慣レ、奢侈ニ趨ルノ源ヲ遏止セント、深ク意ヲ用キラレシニ由ル<sup>ト</sup>ハ、世人或ハ之ヲ知ラザル者アリ、聞ク備前新太郎必將以來、江戸ノ市民ハ衣服其他ノ質素ナル七人ヲ視レバ、一自シテ岡山ノ藩士ナル<sup>ト</sup>ヲ識別シ、揖シテ備前風トイフ。享和ノ末ニ至テハ、其餘影殘響ノ漸ク泯

滅セシニ、江戸ノ市民モ亦容易ニ識別ニ能ハザルニ至レリト。光政ノ質素ヲ以テ一藩ノ風尚ヲ成セル者ハ、則チ謚シテ芳烈ト曰フ所以ニシテ、民其澤ヲ被ムルノ本ナルベシ。

#### 第十四 酒井侯忠清補綴セル相服ヲ服セシ事

酒井忠清ハ幕府ノ執政トシテ、威權アリシ人ナリ、或時殿中ニテ汗出ケレハ、シタタ袒服ヲ脱シテ、搦頭ニ曝ラセシヲ見ルニ、所々補綴セルモノナリシト。

櫻所子曰ク、應仁以降、群雄割據、四海鬪沸シ、民其生ヲ聊ンゼザルモノニ百年、徳川氏衰亂ノ餘リヲ兼ケテ、一意勤儉、以テ斯域ヲシテ蘇息セシメントスルニ在リ、且ツ戰亂日久ク、雨ニ冰シ風ニ抗ルノ餘習、未ダ全ク脱セズ、故ヲ以テ

麗衣鮮食、武人ノ風尚ニ於テ耻トスル者ノ如シ。然リト雖、酒井侯ノ如キハ、身有ニノ諸侯トシテ、天下ノ政柄ヲ執ル。國ノ大臣タリ。然ルモ猶ホ修補セル相服ヲ服シ、以テ政事堂ニ上ボル。況ヤ其他ヲヤ。古人曰ク、治ヲ致ス難キニ非ズ、治ヲ保ツヲ難シト爲スト。何トナレバ、天下ノ未ダ治ラザル。上ノ焦心苦思スル所、下ノ進計獻議スル所。治安ヲ是レ圖カルモノニ非ルハ無シ。天下既ニ治安ヲ致シ、亦憂フベキモノ無ケレバ、則チ上下逸樂ニ相從ヒ、間暇ニ相忘ル。故ニ天下治リ、而シテ畏ル可キ者始メテ生ジ天下安ク、而シテ憂フ可キ者始メテ萌ス。然ルニ慶元僞武ヨリ、明帝萬治ニ至ルコロマデハ、尚ホ治安ヲ保ツニ致マシテ、逸樂間暇以テ屍ヲ馬革ニ裹ム。昔日ノ慘苦ヲ忘ル、ニ至ラズ。

當時ノ士風想見ルベシ。宜ナルカナ。昇平ノ基ヲシテ、益々固ナラシメ、民其澤ヲ被ムル、三百年ノ久シキニ及ビシ。

第十五 土井利勝零餘ヲ棄テザリシ事

大炊頭土井利勝、一日漢繇ノ零餘一尺ハガリナルヲ以テ、近臣大野仁兵衛ニ付シテ曰ク、汝子謹ムテ之ヲ藏メヨト。衆其鄙吝ナルヲ笑フ者アリ。利勝置テ間ハス三年ヲ經タリ。偶利勝腰刀ノ繇解ケタリ。仁兵衛ヲシテ、往キニ付スル所ノ漢繇ヲ持チ來ラシム。仁兵衛直チニ之ヲ腰袋ニ取リ、以テ呈ス。利勝手ヅカラ其繇ヲ以テ刀繇ヲ納メ、欣然トシテ微笑シテ曰ク、無用ノ用令ニシテ、驗アリト。遂ニ其宰寺田某ヲ召シテ曰ク、孤甚ダ仁兵衛ノ護繇ニシテ、主命ヲ重シズルヲ喜ミス。ソレ繇三百石ヲ増シ與ヘヨ。抑モ漢繇ハ

物タル。彼國ニ在テ。桑。蠶。蠶。辛苦。人手ニ成リ。展轉運輸。以  
致。タル。碧。水。ヲ。航。シ。以。至。我。地。ニ。入。ル。其。人。ハ。勞。カ。ニ。經。ル。幾  
千。ソ。ヤ。則。チ。尺。亦。ハ。零。餘。ト。雖。氏。徳。ニ。之。ニ。塵。芥。ニ。委。ム。ル。昔  
心。是。レ。天。物。ヲ。棄。ル。ナ。リ。孤。が。恒。ニ。畏。懼。ス。ル。所。ナ。リ。而。シ。テ  
仁。兵。衛。ハ。之。ヲ。守。ラ。失。ハ。ザ。ル。ハ。之。ヲ。天。ニ。事。ハ。ル。其。ト。謂。フ。  
チ。可。ナ。リ。ト。輒。チ。戲。レ。テ。曰。ク。一。尺。ハ。綿。三。百。石。ハ。祿。ヲ。博。ス。  
獲。ル。所。亦。多。シ。鄙。吝。ヲ。笑。フ。モ。ハ。之。ヲ。如何。ト。泥。ル。ヤ。ト。  
獲。所。子。曰。ク。土。井。利。勝。ノ。如。キ。節。儉。ノ。道。ヲ。知。ル。人。ト。謂。フ。ベ  
キ。ナ。リ。世。人。多。ク。ハ。千。万。金。ノ。容。易。ニ。得。可。カ。ラ。ザ。ル。ヲ。知。テ。  
而。シ。テ。錢。豎。ノ。重。ン。ズ。可。キ。ヲ。知。ラ。ズ。珠。ニ。知。ラ。ズ。錢。豎。ヲ。積  
ム。以。テ。巨。萬。ノ。額。ニ。至。ル。ベ。キ。ト。ラ。然。ル。ニ。零。碎。斷。續。モ。猶。ホ  
之。ヲ。重。ン。ジ。テ。而。シ。テ。其。士。ヲ。賞。ス。ル。ニ。三。百。石。ヲ。以。テ。シ。テ。

愛シマズ。利勝ノ如キハ。節儉ノ理ニ達セル人ト謂フ可キ  
ナリ。今世ノ巨萬ノ富ハ。企及ブベカラズトシテ。錢豎ヲ泥  
土視シ。錙銖ヲ塵芥視シ。自ラ十金ヲ費スヲ愛マサルモ。人  
ニ一金ヲ與フルヲ欲セザル者。豈利勝ノ風ヲ聞テ興起セ  
サルベケンヤ。

第十六 備前侯綱政紙ヲ愛ム事

備侯光政ノ嗣子。綱政。一日美濃紙ニ書シ。字ヲ誤リ。更ニ之  
ヲ寫ス。前ノ紙ヲ以テ近臣某ニ付ス。某受ケテ之ヲ擲ミ。棄  
テ。爛紙トス。綱政責メテ曰ク。汝。何。ゾ。弃。リ。ニ。紙。ヲ。棄。ル。  
ト。ヲ。爲。ル。復。タ。必。ズ。適。應。ノ。用。ニ。供。ス。可。キ。ナ。リ。序。紙。尺。楮。ト  
雖。氏。多。ク。ノ。勞。カ。ヲ。費。シ。テ。成。ル。者。ナ。リ。我。敢。テ。紙。ヲ。答。ル  
ニ。非。ス。其。勞。カ。ヲ。愛。ム。ナ。リ。ト。

附記

水戸黄門光國、深ク紙ヲ愛シ、書翰ノ封套ハ長短ヲ問ハズ、之ヲ接ギ、詩歌ノ草稿ヲ起ス、ノ用ニ供シ、坐上ニ水ヲ滴ラス等ノ事アレバ、之ヲ拭フニ紙ヲ用キ、必ズ布片ヲ以テス、恒ニ女監等ヲ戒マ、妄リニ紙ヲ費ス可カラズトイフ、然レハ猶ホ紙ヲ費ス丁多シ、一日女輩ニ語テ曰ク、抄紙ハ觀ヲ取ル可キ者ナリ、往テ觀ヨト、即チ脂粉一隊、松草村ニ在ル抄紙場ニ赴ク、川上ニ<sup>ササキ</sup>碇ヲ架ス、坐スル所ニハ簀上ニ涼簾一片ヲ籍ク、此日北風暴烈、寒威甯ニ迫ル、紙ヲ抄スル男女ハ、ミチ赤脚ニシテ水中ニ俯仰ス、女衆大ニ驚キ、且ツ其寒ニ耐ヘズ、歸テ後ヲ抄紙者ノ艱苦ヲ説リ、黄門曰ク、紙ヲ製スルノ業、此ノ如クシレ易スカラザルナリ、故ニ<sup>ウツク</sup>方リニ費スヘキニアラザルナリト、爾後後房ノ内、

亦多ク紙ヲ費ス者無キニ至ヒリ、又スレバ、櫻所子曰ク、良齋翁曾テ南史ニ、沉麟士ガ火ニ遭テ書數千卷ヲ燒キ、年六十ヲ過ギ、耳目聰明反故、因以テ撰寫シ、復々ニ三千卷ヲ爲ストイヒ、三輪執齋ガ養子ノ説ヲ記セシ文ノ、反故ニ書セリ云々ノ事ヲ引キ、和漢トモニ製造未ダ盛ナラス、諸物不足ナルヲ以テ、之ヲ愛重シ、人モ亦儉素ヲ守レルトテ證シ、又翁ガ所藏ノ淮海擊音ト題セル、嘉曆四年ニ寫シタル本ハ、半紙ノ如キ紙ニテ、其半面ニ一行并八字十四行トシテ空紙無キヲ見バ、古ヘ紙ノ不足ニシテ、且ツ儉素ナリシヲ想ヒ見ル可シトイヘリ、彼庭訓往来ニ、白紙拂塵八間、及古ヲ用ユル所ナリトイフモ、亦妄ナラザルヲ知ル、備前侯ニ、水戸侯ニ、身大藩ノ主トシテ、猶ホ隻紙ヲモ

安リニ費サレリシヲ視バ假令其製造ノ器械猶ホ乏クシ  
 弗人カテ勞スルハ多キ由ルト雖モ亦儉素ヲ尚  
 一班ヲ窺フニ堪ズル今世製造ノ業未ク大ニ振興セズ  
 計利紙ヲ費ス丁ノ多キ或ハ昔日二十倍セシ故ニ供給ハ  
 常ニ需用ヲ充タスニ足ラス紙モ亦外輸ヲ仰ク其價格亦  
 隨テ翔貴セリ特リ紙ノミナラス布絮絹帛皆然ラサルハ  
 無シ故ニ興産起業ハ目今我邦ノ急務タル世人ノ論究シ  
 テ措カサル所ナリ其人々儉素ヲ守リ妄消費セサルノ  
 一事モ亦今日ハ最大要務ト謂フ可キナリ

第十七 家忠公ハ純姫本多正信ヲ面斥セシ事  
 將軍家忠公ハ純姫某氏其負ヲ逸ル蓋シ參河ノ人ナリ人  
 呼オホテ大濤公ト曰ク純姫オホ登オホシテ大夫ノ風アリ公乳育ノ

故ヲ以テ之ヲ祝ル丁何母ノ如クセリトイフ純姫ハ嗜好  
 無シ但毎月二三度盡ク娯興僕隸ヲ厨下ニ致シテ飯ヲ大  
 盤ニ崇リ一々之ヲ梳ニ裝シテ身親カテ饋シ以テ之ヲ供  
 ス奴輩感戴シ其故醜ヲ極メテ止ム此ヲ以テ平生ノ娯樂  
 ト爲ス一日本多佐渡守正信來リ候フ其親饋スルヲ見テ  
 驚テ曰ク大濤公侍婢使令足ラザルニ非ズ何ゾ苦ムテ自  
 テ饋クル丁チ之レ爲サンヤ純姫然トシテ襟ヲ整ヘテ曰  
 ク此來人子ヲ謂テ驕奢稍甚シト爲ス妾之ヲ聞キ敢テ信  
 セザリキ乃チ今ニシテ其誣妄ナラザルヲ知ル子モ亦彌  
 八郎タリシ時ヲ志レタルヤ妾昔シ饋ナル時一飯ノ恩ナ  
 人ニ施サント欲シテ且ツ得ベカラス今ヤ此大濤ヲ誤ケ  
 奴輩數十人ヲシテ快然飽食セシムル者ハ悉ク皆チ邦家

ノ恩ナリ。而シテ獨リ微賤ノ時ヲ忘レテ可ナクヤ。子ハ天下ノ大老ナリ。是子之ロ問ハズシテ徒勞ヲ以テ擬セテル。吾是ヲ以テ子ガ驕奢ニシテ自ラ膏ル能ハザルヲ知ル。其政務ニ放ケルハ如何モ亦推知スベシト。正信

櫻所子曰ク二代將軍ノ謹厚ナル。天京ト曰フト雖氏亦外良師傅ヲ得。以テ之ヲ輔翼シ。内チ乳媪ノ賢アリ。冥助暗養スル所アルニ由ルカ。今世微賤ヨリ出テ。權紳貴族ノ乳母タリ。妻妾タル者蓋シ少ナカラズ。而シテ富貴ニシテ微賤ノ時ヲ忘レズ。刑典僕隸ニ親鎖スルヲ娛樂トスル。大賤公ノ如キ者アルカ。多クハ驕傲ニシテ。賢客アリト雖トモ出テ。接セズ。梳粧ノ餘暇ニハ。則チ三級ヲ弄シ。月琴ヲ彈

シ。冲箱本ヲ翻シ。以テ日月ヲ消シ。訪花觀劇ヲ以テ娛樂トシ。其甚キハ粧費若干ヲ捐テ。泉園クイエン第千三纏頭シテ人ニ誇ルニ至ル。知ラズ。其等ノ婦女ノ乳養生育スル所果シテ冥助暗養ノ効アルヤ否ヤ。

第十八 青木民部少輔絹ノ衾禱ヲ謝セシ事

青木民部少輔因ハレ。板倉伊賀守厚ク之ヲ遇シ。絹ヲ以テ裁シタル衾禱ヲ供セリ。民部少輔衾ノ衿ヲ執リ。其頭ニ加エテ謝シテ曰ク。我未ダ此人。如キ臥被ニ纏ハレテ夢ハ結ビ。タル下無シ。敢テ辭セント。是ニ於テ。更ニ木綿ノ衾禱ヲ供ス。當時ノ大名ハ。概テ此ノ如キ風俗ナリシトイフ。櫻所子曰ク。惟ルニ應仁以降。元和ニ至ルマデ。四海騷然トシテ。世ノ武門武士タル者。平素尸ヲ馬革ニ裹ハ。日アル

コテ忘レズ。人民ノ衰弊亦極ル。故ニ萬鍾ノ禄ヲ食ム者ト雖也。其衣服飲食ノ質素ナル。慣習俗ヲ爲セシ者ナルベシ。然リト雖也。今世家藏鍾久禄アルニ非ズ。亦素封ノ陶猗ニ比スベキモノニモ非ズシテ。其卧榻衾蓐、美錦衾爛タリトモ謂フ。ヘキモノニ纏ハレテ。高眠スル者アリ。或ハ恐ル斯輩ガ他日綿衾ヲモ。其衿ヲ執テ頭ニ加フルニ至ランコトナリ。

第十九 大河内金兵衛松平信綱ヲ訪フ事

大河内金兵衛。一日關老伊豆守信綱ヲ訪フ。信綱出デ、接ス。時恰カモ嚴寒。風刀剪ルガ如ク戸隙ヨリ來ル。信綱曰ク。爺カ老健ヲ以テスルモ。寒ヲ覺フルトハ壯年ノ者ニ勝サレヘシ。仰テ戴イテ談話セラル、亦何ゾ妨ケント。金兵衛

其言ヲ謝シ。奴ヤ木綿ハ巾ヲ懐ヨリ出シテ之ヲ被ムル信綱左右ニ命ジ種々ノ綿織ヲ以テ裁セル巾。凡ソ十有餘個ヲ齎チ來ラシメ。意ニ適フモノアラバ之ヲ取レト謂フ。金兵衛曰ク。僕ガ巾ノ故クシテ且ツ粗ナルヲ以テ。此クノ如クセラル、ナルベシ其言ハ感謝スルニ堪タリ。然リト雖也。巾也者ハ公ニ用キズ其私ニ於ケルモノニ逢フキハ之ヲ脱セザル可カテズ。巾ノ美ナル亦何ノ益カアランヤト。遂ニ取テズ。

櫻所子曰ク。松平伊豆守ハ德川氏股肱ノ良臣ニシテ。世綱シテ智囊ト爲ス。酒井忠世。青山忠俊ト並ニ家老將軍ノ侍トシテ。寛永ノ三輔ト名ク。德川家守成ノ業ニ於テ謀畫スル所多シ。大河内金兵衛ハ其父ナリ亦恆ニ輔相ノ職仕

ヲ重ンゾ。敢テ伊豆守ニ驕ラズ。而シテ巾ノ美ナル亦何ノ  
益カアラシヤノ一語。後山ノ氣ヲ罵ノカヲ有ス。金兵衛亦  
權臣施政ノ如何ニ注目シ。一舉一動苟モ其心ニ慍セザル  
者アレバ。直言以テ之ヲ折ク。伊豆守ノ父タルニ耻ヂズト  
イフベシ。吁。寛永ノ時代。何ゾ良臣ノ多キヤ。

第二十

酒井忠真綿衣ヲ以テ納徵トセシ事

酒井修理太夫忠真。其婦要ノ前ニ當リ。木綿衣十疋ヲ以テ  
納徵トス。老臣等惟ミ問ス。忠真曰ク。予ガ藩士ヲ撫育シ。且  
公ニ對シテ其職ヲ盡サンコトヲ欲スレバ。則チ節儉ヲ事ト  
スルニ若カズ。故ニ孤モ亦恒ニ綿衣ヲ服ス。又我カ妻タル  
者ヲシテ善ク。此意ニ順カハシメザル。可カラズ。若シ之ヲ  
否ナマバ。離替スルハ一事アルノミト。

櫻所子曰ク。忠真亦一城ノ主タリ。而シテ其妻ヲ要ル。綿衣  
ヲ以テ納徵トス。今ヤ寒郷僻地ノ農夫モ猶小絹袖ヲ裁シ  
テ其婦ニ衣被ス。今古開化ノ度同シカラズト雖。其公ニ  
奉ズルト。私ノ業ニ從事スルトニ論無ク。忠真ノ心ヲ以テ  
心トセバ。世人ノ所謂。獨立自治ノ精神ヲ振起スルニ足ル  
ヘシ。其素行若シ此ニ反スレバ。其結業モ亦之ニ反ス。

第二十一

酒和田喜六獨斷ヲ以テ金ヲ貸シタル事

積ムテ善ク散ズルハ。節儉ノ妙用ナリ。若シ財ヲ積聚シテ  
立山ノ如クナルモ。此ヲ活動スルコトヲ知ラザルハ。是レ  
守錢奴ノミ。今其財ヲ活用セシ。酒和田喜六ノ事ヲ記セシ。  
喜六ハ寛永時代ノ人。永井信濃守ニ仕テ信濃守ニカニ赴  
クニ當リ。喜六ヲ留メテ藩務ヲ聽ベシム。藩土家計ノ給セ

其レヲ謝ヘ。金ヲ貸與セシコトヲ喜六ニ要請ス。喜六即チ其  
 主ニ請ハズシテ、金庫ヲ開キ、銀子千貫目ヲ貸ス。信濃守江  
 戸ヨリ歸ルニ及デ、喜六ヲ責メテ曰ク、汝ゾ何ゾ私ニ告ゲ  
 スシテ銀ヲ貸セシヤト。喜六頓首シテ謝シテ曰ク、某因コ  
 ハ之ヲ申請スルモ、不可セシハ、然ルコトヲ知ル何トナレハ、  
 今某が請ハズシテ、貸與セシヲ叱責セラルハ、以テモ、推  
 知不可キナリ。若シ其死可セラレントハ、強テ請求スルハ  
 不敬ナリ。而シテ之ヲ貸中、レハ、藩上ハ窮乏ヲ奈何セン。  
 或ハ止ムヲ得ズシテ、上國ハ商估ニ就テ之ヲ借リ、科子ヲ  
 其債モニ占有モカハ、ハハリハ、寧ハ金庫ニ儲藏スル所ハ  
 モハ、出シテ之ヲ貸スニ若カズトシテ、請ハズンテ銀ヲ  
 借與セリ。抑モ主公ガ金銀ヲ儲蓄セラルハ、軍備若クハ

公務ノ為メニ消費スルニ在リ。藩士ノ窮乏ヲ救ヒ、兵馬ノ  
 散ヲ減ゼザルコトニ意ヲ用ユルハ、則チ軍備ノ基本ニシテ。  
 士ヲ養テ兵備ヲ怠ラザルハ、則チ公ニ對シテ其職任ヲ盡  
 スモノト謂フベシ。且ツ夫レ、府庫ノ財ハ之ヲ貸スモ取テ  
 消糜スルモノニ非ス。年ニ其十分ノ一ヲ納レシメ、十年ヲ  
 待テ全ク償還セシムルノ約束ナレバ、上一毫ヲ損ズル  
 所無クシテ、下モ凍餓ヲ免ガルハ、ハ思澤ヲ被ムル。是某ガ  
 大利ナツテ、小損ナキヲ見、獨斷ヲ以テ斯事ヲ決行セシ所  
 以ナリ。發責重謹ハ國ヨリ期スル所ニテ、振ト云ヘラレバ、  
 信濃守モ其言ノ理アルヲ聞キ、慙慙シテ止マカルトゾ。  
 櫻所子曰ク、將軍家光公、文武兼備ノ士十数人ヲ陪臣中ヨ  
 リ選拔セラレシコトアリ。酒和田喜六其一ニ在リ。喜六曾テ

林道春ニ從テ。儒經ヲ講究シ。又國風ヲ善クセリトイフ。思  
ヲ喜六其主ニ害ナク其臣ニ利アルヲ視ルヤ。銀ヲ貸シ  
テ危デマズ。專斷ヲ責テ一身ニ操フ。豈ニ毅然タル大丈夫  
ニ非ズヤ。幕政ノ稍衰アルニ及デハ。士風亦隨テ萎靡。官  
倉中陳々紅腐ノ粟ヲ堆シ。而シテ野ニ饑餓アレハ發スル  
ヲ知ラズ。偶賑恤ノ功益アルヲ知ルモ。鞭ヲ避ケテ敢テ口  
ヨリ出サズ。唯己レガ地位ヲ危フセザランコトヲ智ム。故  
ニ國老藩宰ト雖氏。區々タル例格ノ末ニ拘束セラレ。其藩  
廳ニ在ル。凜乎トシテ燕ノ幕ニ鼎クガ如シ。敢テ己レガ才  
力ヲ展ブルコトヲ知ラザルハ。亦立仗ノ馬ニ似タリ。手ヲ拱  
シ耳ヲ垂レ。阿諛穢嚙ヲ以テ得タリトシ。苟且怠慢ヲ以テ  
宜キニ適フトシ。其利ヲ知ルモ敢テ爲サズ。其害ヲ視ルモ

敢テ去ラズ。左顧右盼。吏議ヲ免カレ。禍ヲ避クルニ汲々ト  
シテ。以テ久安ニ僥倖セリ。宜ナル哉。上下隔絶シ。言路乖戾  
シ。遂ニ維新革命ノ期ヲ促ガシ。封建制度ノ發達ナラル  
ニ至リシコト。今々制度一革。小失ヲ畧シテ責ムルニ大綱ヲ  
以テシ。下モ其上ヲ疑ヒ。上其下ヲ忌ムヨリシテ。常ニ其肘  
ヲ擊シテ其足ヲ係ク所アルカ如キ。無クシテ。而シテ吏  
タルモノ。肩背ノ芒刺ヲ釋去シ。意ヲ法令ノ外ニ措クヲ得  
ル所アルカ如シ。故ニ阿諛穢嚙。苟且怠慢ノ弊廢ヲ留メズ。  
然リト雖ル。己レガ地位ヲ危フスルヲモ顧ミズシテ。上下  
ノ利便ヲ謀ル。酒和田喜六其人ノ如キニ至テハ。益シ得  
易シトセズ。然レバ則チ。酒和田喜六ノ財ヲ用フルノ故。  
知ルカ如キハ。抑モ末ナリ。其主ニ事フルノ至誠ニシテ。即

ヲ満腔ノ赤心アルト。斷行シテ危ブマザル。斗大ノ膽カト  
ハ。實ニ歎稱シテ餘リアリト謂フベシ。

第二十二 綾部道弘其子ノ奢侈ニ習フヲ懼レシ事

綾部道弘、元禄時代某侯ニ仕任セリ。剛直ニシテ篤行ノ  
士ナリ。家貧ニシテ幼キハ學資ノ給スベキナク。艱苦困頓。  
東西ニ漂泊シ。取カモ其志ヲ屈セズ。遂ニ儒業ニ通シ。傍ラ  
醫術ニ達セリ。人トナリ親黨故舊ニ厚ク。給ヲ解キ難ヲ挫  
ヒ。其等ヲ辭セス。長官ニ對スル。直言シテ忌憚ル所無シ。  
人始メ其業ヲ憚リ。久クシテ後チ其恩ヲ信シ。里閭相告ゲ  
テ。吾黨ノ君子人ト稱シテ尊メリトイフ。道弘自ニ奉ズル  
儉素ニシテ。華飾ヲ喜バズ。偶人アリ。其子ニ彩飾。衣ヲ遺  
ス。小シニ之ヲ服スル。トテ許ラズシテ曰ク。先君貧素ニシ

テ世ヲ終リ。我ノ常ニ孝養ヲ怠レ。仕ヒケル。ノ婦ハ存セリ。  
辛勤多年幸ニ倖資ヲ享ケテ。兒女ヲ養フト。雖此豈其本ヲ  
忘レテ。刊ナランヤ。况ヤ人情儉ヨリ奢ニ入ルハ。易ク奢ヨ  
リ儉ニ復スルハ難シ。我ノ吾ガ兒女ヲ愛セザルニハ非ズ。  
奢侈ニ習ハシメザラン。トヲ思フ。ノミト。又其子ニ教ユル  
ニ。四書小學及ヒ古文ノ詩ヲ以テシ。絶ラ聲伎博局ノ事ヲ  
知ラズメズ。又其子安正ノ江戸ニ在リシ日。書ツ遺テ曰ク。  
子萍蒿ノ間ニ長シ。頻リニ岫難ヲ經。以テ今日ニ至ル。未タ  
夙志ノ萬一ヲ償フ。ト触ハス。幸ニ汝チヲ生ム。今年已ニ數  
仕。早く衰靡セルヲ覺フ。トモフニ汝ナガ成立ヲ見ルニ及  
ハサルベシ。今ヤ汝チガ勤學シテ志ヲザハラ知リ。吾カ志  
願ヲ満足セリ。汝チガ孝モ亦大ナリト謂フ可シ。夫レ道ハ

人倫ニ外ナラズ。徒ラニ心ヲ浮華ニ騁セテ、日用ノ虚ヲスル勿レ。凡ソ事ノ義ニ害ナキ者ハ、時俗ニ從フベシ。國禮ニ違フヲ勿レト。

櫻所子曰ク、道弘ノ其子ヲ訓誨スル、人ノ父タル者ノ道ヲ盡スト謂フベシ。父母ノ心ハ人ノ心之レアリ、而シテ其子女ヲ愛スルヲ深キ。之ニ衣食スルニ、鮮麗甘美ヲ以テシ、之ニ習學セシムルニ、歌舞絃管ヲ以テス。故ニ其長スルニ及ベバ、則チ骨軟カニ筋緩フシテ、耐忍剛毅ノ事業ニ堪エズ。奢侈恣逸ノ嗜好ヲ去ル能ハズ。遊冶男子、恣奔阿嬖ト爲リ、醜ヲ世上ニ流ガスニ至ラザル者アルハ、幸ナリ。既ニ奢侈ト逸樂ニ長ジ、鄭聲衛風、其神經ニ薰染スルモ、人世必需ノ學術ニ短ナリ。莫ク其身ヲ立テ道ヲ行ナロ榮ヲ父母ニ及

小人ノアスヲ望ムベクシテ、是原ハ其父母タル者、兒女ヲ愛スルカ爲メニ、翻テ兒女ヲシテ百年ノ身ヲ誤ハシテ不幸ニ陥ラシム。古人曰ク、訓導ノ嚴ナラザリハ、父過チナリト。人ノ父母タル者、宜ク道弘ヲ以テ龜鑑ト爲ス可キナリ。

第二十三

奥貫五平次飢民ヲ賑恤セシ事

奥貫五平次ハ、武藏國八間郡河越ノ人ナリ。友山ト號ス。世業ヲ業トシ、邑ノ豪民タリ。少フシテ學ヲ好ミ、江戶ニ遊ビ、業ヲ成島錦江ノ門ニ受ク。學成テ郷ニ歸ル。從學スルモノ多シ。寛保中、關東洪水アリ、八間郡最モ其害ヲ受ク。民舍湮沒、數十里ニ亙ル。五平次即チ食ヲ舟ニ載セ、鹽俵トトモニ、鹽ヲ糶カシテ、以テ性キ。飢者ニ飲食セシメ、其濕處ヲ視テ、病者ハ慈ク之ヲ載セテ還リ、已レトガ家ニ養撫スル數百

人因テ其父ニ請フテ曰ク、大人平生兒ニ誨フルニ、儉ヲカマ  
テ節スルヲ以テス。豈ニ今日ノ急ル爲メナラズヤ。願クハ家世ノ積  
聚スル所ヲ以テ之カ賑恤ニ當テント。父喜ムテ之ヲ許ス。  
是ニ於テ大ニ倉庫ヲ發キ、飢民ニ施與ス。流氓男女傳ヘ聞  
テ、手テ臻ル。門前市ノ如シ。五平次冬ク粥ヲ作テ、奴ノ最モ  
恭謹ナル者數人ヲ擇ビ、以テ之ヲ待タシム。俄メテ曰ク、  
者固ヨリ貧ナルニ非ス。謹ムテ輕慢スル勿レト至レバ、學  
ク之ヲ申慰ス。飢民其辱キヲ辨テ、五平次一ニ賓客ニ接ス  
ルカ如クシ。壯幼ヲ問ハズ、人ゴトニ米四升ヲ與ヘテ行カ  
シム。受クハ者感謝セサルハ無シ。既ニシテ、糜盡ク、又人ヲ  
シテ金ヲ四方ニ齎テ、シ、穀粟及ビ大豆、蕎麥ヲ買ハシム。金  
ハ亦盡ク、又父ニ請フテ、田宅ヲ江戸ノ富商ニ質トシ、金ヲ

得以テ之ヲ賑フ。冬十月ヨリ翌年八月、夏四月、  
施ハ及バ、所四十八、掛終始救テ、所十萬六千人餘。事官ニ聞  
ス、大ニ錢帛ヲ賞賜シ、門閭ニ旌ス。  
河越侯秋元但馬守涼朝執政タリニ時、大ニ五平次ガ爲ス  
所ヲ悅ビ、召見シテ、時服佩ルヲ賜フ、爲ニ盛饌ヲ設テ、其宰  
臣ヲシテ伴食セシム。五平次飯ニ碗、菜一、柀ヲ喰了、其餘  
ニ及バズ。大夫鮮蓋ヲ敷ル、ヲヲ勸ム。五平次曰ク、四民飢渴  
シ、若御凍餒ス、玉侯ニ非ルヨリハ、甘美ヲ食フ可カラズト  
云フ。テ、食ヒズ。  
明和申、武藏相摸上野三州荒饑ス、奸民相集テ、盜ヲ爲ス、富  
商ヲ劫奪シ、民舍ヲ毀壞ス、暴亂甚々多シ、有司坊正之ヲ檢  
スレドモ、其人ヲ知ラス、將サニ友山ガ家ニ及バシトス、一

人走テ至リ、大ニ其徒ヲ呼デ曰ク、是レ我ガ奥貫翁ノ居ナ  
リ、昔シ寛保ノ水災、翁在ルヲ以テ、我ガ祖父母兄弟ヲシテ  
生存ヲ得セシム、汝ヂ之ヲ知ルカト、衆大ニ感キ、相與モニ  
顧ミテ曰ク、我儕庇恩ヲ報スルノ力無シ、而シテ反テ虐ス  
ベケンヤト、門外ニ俯伏シテ去ル、故ニ其四隣ニナレカ爲  
メニ暴亂ヲ免ガルト云フ、  
櫻所子曰ク、奥貫友山ハ儒學ヲ以テ名ヲ得タル者ナリ、而  
シテ其爲ス所、尋常腐儒ノ得テ能ス、キ所ニ非ズ、宜ナル  
哉、暴民ノ奥貫翁ノ居ナリト聞ケバ、則チ俯伏シテ去ルニ  
至ルル、一、吁、友山ノ如キハ、真儒ト謂フニキナリ、

第二十四 大黒屋善兵衛橋本某ヲ感悟セシメシ事  
江戸十軒店ノ絳帛舖ニ、家號ヲ大黒トイヒ、名ヲ善兵衛ト

稱スル者アリ、資産殷富ナレ氏、自ラ意ヲ家事ニ注シ、  
中ニ生レテ判ヲ馳シ、才識アリテオヲ川井ス、故ヲ以テ、  
ホニ思著黄赤ノ色、修短寛窄ノ製ヲ錯誤シ、顧客ノ愠怒ヲ  
受ク、輒々微笑シテ曰ク、僕稟性迂濶ナル、命スルニ此煩瑣  
ノ役ヲ以テセラル、豈任用人ヲ得ザルニ非ズヤ、自友シ  
テ之ヲ怨セヨト、顧客亦笑テ止ム、爲メニ折價スルコト屢ナ  
ルモ、敢テ省セズ、亦一奇人ナリ、偶、親家橋本某ナル者アリ、  
年猶ホ若フシテ父ヲ喪ヒ、放肆蕩散、檢束スルコトヲ知ラズ、  
娼妓ニ惑溺シ、亦家道ノ日ニ衰頹スルヲ省ミズ、其母頗ル  
之ヲ愛懼シ、親族ヲ招テ、議規シ、理裁以テ之ヲ折ヤ、温言以  
テ之ヲ喻トス、善兵衛帯ニ在リ、唯、嘿坐シテ、雖ヲ變スルコト  
ニ未ダ始メヨリ一語ヲ置カズ、僕仲次神シテ、衆ニ先々ツ

テ辭テ去ル。後チ一日、其來謝シテ曰ク、僕ノ愚蒙ナル、又シテ親家ヲ累ハス、今ヤ曾非ヲ覺トル、懃悔スレバ及ブ、然レド雖モ、僕マ州ニ將來ヲ戒快シ、以テ前過ヲ償ハシ、然レド可ナラシヤト、善兵衛曰ク、甚ダ善シト、其後々謀ヲ致シ、謂テ曰ク、獨ギニ故ノ僕ニ要求スルニ、春服ヲ以テセ、中、僕過テ諾ス、追悔スレバ及ハス、物モ言ヲ食ムテ果サバ、ルハ、男子タルモノ、辱ナリ、僕ガ畢生、所願唯、此一事アルノミ、自今以後誓テ花柳ノ地ヲ履カザラシ、善兵衛曰ク、信ニ然ラバ、又何ゾ不可ナラハヤト、某又曰ク、其約スル所、衣帶ハ云々ニシテ、添續ハ云々ナリ、價約ネ五十金、伏シテ願クハ、子ノ擔當シテ之ヲ作シ、コトヲ成ルノ日、將甘ニ其前ヲ償ハントス、未ダ知ラズ肯許セラルハ、ヤ否ヤト、善兵

衛曰ク、是レ吾ガ某トスル所、之ヲ辨ズルニ、於テ何カ、然レド、懃クハ速カニ成リ難シ、悔後以テ期ニ、何如何レ、某誠真拜謝シテ去リ、往テ妓ニ誇テ曰ク、吾レ汝ノ爲メニ春服ヲ命ズト、已ニシテ除タニ至ル、夜マヤ、其半バトラントス、未タ齋チ來ラズ、某惟レ、眞人ノ差ハシテ之ヲ促カス、善兵衛是ニ於テ衣ヲ分テ二帊ト爲シ、數ヲ多ク之ヲ負フテ至ラシム、某狂喜シテ帊ヲ發ケバ、綿衣ニナリ、皆皂色ニシテ、橋本氏ノ章ナリ、某愕然トシテ措ク所ナシ、失シテ曰ク、除夜ニ紛擾ナル、誤テ他物ヲ輸セシニ非ル、無キノ得シヤト、善兵衛色ヲ正フシテ曰ク、此、水ノ氣、死ハ、一作、香、然ク、色ニ流ル、産ヲ破リ、曼ヲ母氏ニ、胎ハ、例ハ、因テ、吾、簿ヲ、懐ヨリ、出シ、之ニ示シテ曰ク、是レ昔ノ、故、

家奴ニ係ル貧困支へ、又東粟歳ヲ守ル者ナリ。吾爲人ニ春  
振コ製ス。速カニ人ヲ差ハシテ分給セヨ。且ツ一故ニ衣ハ  
ハ、二十人ニ衣スルニ孰與レト。其茫然トシテ自失、復  
々奈何凡スベキ無久。遂ニ其言ノ如クヌ。明日陸續來、一年  
ヲ伴シ、恩ヲ謝シ、家章瑞斑鶯列シテ、懼登至ニ。蒸氣、祥氣、瑞  
光、意對、表ニ出テ、而シテ故ハ則チ怨ミヲ鳴シテ之ヲ絶  
ツ。其始、テ感悟スル所アリ。遂ニ志ヲ改メテ、進歩シ、家産  
稍々故ニ復セリトイフ。  
櫻所子曰ク、世ノ滯弊ニ趨クヤ、情波欲濤ニ浮沈スル所ノ  
爲子治郎、其人ニ乏シトセズ、而シテ親朋ノ理義以テ之  
拍、温言以テ之ヲ論トスアリト雖在、其迷、嚙痴露ヲシテ  
解、取ヒシムルニ足ラザル。恰々ヒ雷響ガ皮膚ヲ刺、衝スル

ノ藥劑ノ投、テ骨髓ニ滲、漸スルノ病、病ノ府ヒ  
カ知、善兵衛ノ之ニ處、ル人ノ意表ニ出テ、善ク取、ノ轉  
シテ功ト爲、之、春ヲ回シテ、明ト爲サシム。猶ホ良醫ノ  
力投、シテ、頓ニ回生起死、ノ効ヲ奏シ、患者ノシ、ノ、肌体清、  
神氣爽快カテシムルガ、コトトシ、願フニ此、乃、妙ノ手段ナ、以  
テ、移シテ、太事ニ托サバ、假令盤錯處ニ難キニ違フト雖、凡、  
轉ヒニ因テ、伎倆ヲ逞フスル、猶ホ夜、日ノ牛ヲ解クガ、ゴト  
名、神、然トシテ、餘地アルヲ得、之、美ゾ、帝、ニ、故、ニ、與、フル者、  
轉、シテ、家奴ニ與、フル、  
第三十五、其、釋、月、仙、貧、鄙、ノ、諸、門、ヲ、避、ケ、并、川、ノ、事、  
釋、月、仙、ノ、伊、勢、ノ、僧、ト、リ、幼、ニ、シテ、剃、度、ス、性、盡、ク、好、ミ、蓮、  
其、妙、ヲ、極、メ、名、海、内、ニ、噪、ク、然、カ、モ、甚、ク、潤、筆、ノ、資、ヲ、得、ル、ヲ、

欲、畫ヲ請フ者、毎ニ必ク先以價ヲ論シ、後ヲ筆ヲ  
起シ、而モハ、是ニ因テ、世其貪鄙ヲ殘ル。月仙、雖ミ、ナルナリ  
一名妓ナリ、其畫ヲ善クスルヲ聞キ、叔ヲシテ來テ之ヲ請  
フシム。月仙、先以價ヲ論ズ、叔返リ告グ、叔曰ク、價ハ、宜ク其  
欲スル所ニ從テ可キナリ。畫成ル、月仙、親ラ、對シ、來ル、妓  
嫖客ナルニ會ス、宴方ニ盛ナリ、乃チ月仙ヲ引キ、酒味ニ就  
カシム、金若干ヲ攫ヒ、席ヒニ擲テ以テ之ヲ與ヘテ曰ク、金  
以テ畫ヲ買フナリ、噫、賣畫僧、齒スルニ足ラズ、買フ所ノ幅、  
掲グルニ足ラズト、是ニ於テ、衣裳ヲ脱シ、進ムデ、獨人中ニ  
立テ、自ラ其襟ヲ解キ、幅ニ代テ、壁上ニ掲、叔因テ笑テ曰ク、  
唯、袖ヲ獲ズト、皴氏、亦佳禪ヲ獲タリト、一坐之ガ爲メニ目  
ヲ掩、以、月仙、熟視シ、テ、愧ル、色無シ、後チ益、其價ヲ貴シ、其

獲ル所ノ金ヲ掲、燒シ、遂ニ以テ、巨富ヲ致シ、一ス、一ノヤ  
納僧大雅來リ、留シテ曰ク、水雲ヲ心ト爲シ、樹石ヲ棲テ、  
ス、豈ニ鼻祖ノ教ニ非スヤ、假令寺ヲ出テ、山ニ入ルヲ能  
ハザルモ、書畫利ヲ繳シ、以テ、富ヲ致ス、何ゾ、銅臭ヲ嗜ムノ  
甚シキヤ、是豈ニ特リ和尚一人ノ汚辱ノミナランヤ、請フ  
禪レヲ改メヨト、月仙曰ク、洵トニ然リ、抑モ予ノ畫ニ於ケ  
ル、固ヨリ、已ム可クシテ、已マサル者、蓋シ、以ヘ、アルナリ、予  
孤ニシテ、貧シ、戚族、拉シテ、予ヲ、妓寺ニ、投ケ、師之ハ、憫ハ、卵  
ニシテ、翼ス、師ニシテ、父母ノ恩ヲ、兼メ、歎ム、ハニ、臨ミ、命シ、  
テ、以テ、寺主ト爲ス、水雲ヲ、心ト爲シ、樹石ヲ、棲ト爲ス、  
ハ、サハナリ、往年ハ、凶荒、茲ハ、土特ニ、甚シ、飢、草相、枕シ、道、塵  
相望ソリ、因テ、意フ、ニ、書畫ハ、玩物ナリ、而シテ、之ヲ、變ス、ル

必。不。貧。者。非。不。令。ヨリ。以。性。忍。辱。シ。テ。排。瀝。シ。其。潤。筆。ヲ。書。へ。積。ム。ニ。歳。月。ヲ。以。テ。セ。バ。庶。幾。ク。ハ。以。テ。必。ク。康。賊。ヲ。驅。ハ。ス。ニ。足。ラン。カ。幸。ニ。シ。テ。請。フ。者。陸。續。ト。シ。テ。門。ニ。及。ブ。之。コ。人。ニ。託。シ。積。ム。チ。五。百。金。ヲ。得。乃。チ。山。田。赤。行。ニ。屬。シ。以。テ。敷。村。ノ。内。荒。ニ。瓦。ツ。則。チ。宜。ク。已。ム。マ。シ。然。レ。氏。又。謂。ハ。ク。逢。山。陰。隘。ニ。シ。テ。來。テ。大。廟。ヲ。拜。ス。ル。者。之。ヲ。病。ム。先。師。匠。ニ。以。テ。受。ト。爲。マ。乃。チ。爲。メ。ニ。揮。灑。シ。テ。三。百。餘。金。ヲ。得。タリ。因。テ。功。ヲ。興。シ。險。以。テ。夷。カ。ニ。隘。以。テ。豁。カ。ニ。シ。テ。行。旅。之。ヲ。喜。ビ。謳。歌。シ。テ。過。ク。則。チ。將。サ。ニ。筆。現。ヲ。燒。カ。ン。ト。ス。此。ヨリ。先。キ。先。師。將。サ。ニ。堂。宇。ヲ。修。繕。セ。ン。ト。シ。果。サ。ズ。シ。テ。適。ク。令。ヤ。堂。宇。敗。ル。傾。キ。柱。樞。盡。ス。因。テ。又。將。サ。ニ。其。志。ヲ。繼。ガ。ン。ト。ス。予。已。ニ。老。タリ。成。否。必。シ。難。シ。然。リ。ト。雖。氏。今。此。ニ。從。事。ス。軀。

猶。小。頑。健。一。シ。テ。財。モ。亦。稍。聚。ル。要。ス。ル。ニ。三。年。ヲ。出。テ。將。リ。志。ヲ。償。ハ。ン。ト。ス。此。レ。余。ノ。銅。臭。ヲ。嗅。テ。厭。ハ。リ。レ。所。以。ナリ。此。一。事。ヲ。了。ス。レ。バ。將。リ。ニ。心。ヲ。死。シ。真。ヲ。修。シ。定。後。ノ。真。諦。ニ。歸。セ。ン。ト。ス。爾。時。財。ハ。即。チ。乾。屎。擲。リ。以。過。ス。レ。バ。則。チ。掉。テ。適。セ。サ。レ。バ。則。チ。已。ム。銅。臭。ニ。何。ア。ラ。ン。ヤ。ト。大。雅。大。ニ。感。焉。拜。シ。テ。去。ル。

櫻。所。子。曰。ク。凶。荒。ニ。備。ヘ。道。途。ヲ。修。夷。ス。ル。豈。ニ。濟。世。ノ。美。舉。ニ。非。ズ。ヤ。志。ヲ。繼。テ。堂。宇。ヲ。修。補。ス。ル。ハ。帥。長。ノ。恩。ニ。報。ズ。ル。ナリ。而。シ。テ。此。濟。世。繼。志。ノ。爲。メ。ニ。忿。辱。含。垢。以。テ。罷。勉。持。振。能。ク。其。志。願。ヲ。滿。足。ス。月。仙。ノ。事。相。ニ。多。ト。ス。ル。ニ。足。リ。モ。ナリ。世。ノ。僭。徒。ノ。身。ニ。錦。繡。紫。紅。ノ。衣。ヲ。選。ビ。以。ニ。因。緣。因。果。ヲ。説。キ。之。ヲ。望。メ。バ。儼。然。ト。シ。テ。活。佛。ノ。如。ク。ナ。ル。モ。其。心。理。

ヲ察スレバ營名貪利至ラザル所無ク、夢悟煥然、俗務、  
諄ヨ事トスルニ非レバ、則チ有財餓鬼タリ、常見ノ外道ノ  
部類ニ非レバ、則チ斷見ノ魔王ノ眷屬タル輩ニ比レバ、  
月仙豈ニ日ヲ同フシテ語ル可キモノナリシヤ、

集二十六 春夫八藏ガ達ナル事

春夫八藏ハ信濃國其村ノ農キムリ、信濃ノ俗タル、毎秋  
冬ノ交壯者相誘シテ江戸ニ來リ、自ニ鬻キテ奴トナリ、春  
來南畝ニ事アルニ及ンデ去ル、而シテ都門ノ繁華ニ慣レ、  
頗覺シテ還ラズ遂ニ都籍ニ入ル者、性々ニシテ在リ、八藏  
始メ郷人十餘輩ト俱ニ來リ、而シテ亦留ル者四人、八藏其  
一ナリ、俱ニ連房ヲ淺草福富坊ニ積シテ居ル、饑饉ヲ補フ  
者、大車ヲ批ル者等、各自業ヲ異ニス、八藏ハ則チ人ニ役キ

セラレテ米ヲ舂ク、致々耽々トシテ、各其勤クニ服ス、而シ  
テ或ハ酒ヲ飲ミ、或ハ賭博シ、或ハ花柳ニ遊蕩ス、其嗜好ヲ  
一二セズ、隨テ獲レハ隨テ費シ、半文錢ヲ宿メス、八藏獨リ、  
衣食ヲ損ミ嗜欲ヲ忍ビ、意ヲ一ラシメ、貯蓄ス、錢ヲ積ム、  
銀ニ換エ、銀ヲ化シテ、金ト為シ、日ニ積ミ、月ニ化シテ、貴  
頗ル富ム、暇アルハ、則チ博ヲ行ヒ、出シテ、青眼放如摩挲シテ  
以テ樂ム、儔輩其所爲ヲ笑フ、一日之ニ謂テ曰ク、夫レ人ノ  
筋骸ヲ勞シ、能ク耐エ難キニ耐エ、忍ビ難キニ忍ブ者、豈他  
アラシヤ、財ヲ獲テ以テ嗜好ヲ遊ゲントス、養生延年ノ道  
乃チ爾リ、然ラズンバ金ヲ積ムテ星斗ヲ撐ケルモ、亦何ノ  
用ユル所ゾ、日ノ獲ル所夜ハ則チ散ジ盡シテ日出テ、カ  
作シ、錢ヲ攫ムテ還ル、身アリ錢アリ、樂ムテ以テ歳ヲ送ル

ハ此レ太平雨露之恩吾儕ノ郷ヲ離レテ都ニ宅スル所以  
ナルノミ。今汝がハ貯蓄シテ用キズ知ラス何ノ意ゾヤ。盍  
ハ速カニ故郷ニ歸ラザルヤトハ藏笑テ答ハス然レ氏竟  
ニ其爲ス所ヲ改メス。儕輩竊カニ指斥シテ曰久該ニ所謂  
疾ヲ醫スル藥無シトハハ人謂ナリト。既ニシテハ藏疾ニ  
寢ネ。荏苒月ヲ踰エテ起色無シ。一日三人謂テ曰久同郷相  
長ジ。今同爨共食ス。情兄弟ニ同ジ。今疾日ニ漸。吾儕甚々  
之ヲ危アル。若シ不幸ニシテ起タヌンバ其財フル所ノ金  
ハ如何カ處措セン。請フ今ニ及ムテ之ヲ言ハハ藏笑曰  
ク。人各嗜好スル所アリ。此ヲ以テ心身ヲ勞苦ス用ヒテ以  
テ其欲スル所ヲ遂グルニ及ムバ則チ洒然トシテ以テ樂  
ミ愉然トシテ自適ス。其跡ハ同ジカテザルモ其樂ミト爲

スハ則チ一ナリ。要スルニ各其樂ミヲ樂ムノミ。予ヤ積ム  
テ用キズ。玩弄以テ自ラ娛ム。是レ我方無上ノ樂ミ。其  
然ル所以ハ則チ吾ト雖凡知ル能ハズ。今索中ノ物ノ如キ  
ハ吾ガ平生樂ミタル所ノ數ナリ。又何ゾ顧戀センヤ。暨ニ  
謝シ數ヲ埋ムルノ餘一ニ之ヲ汝ガ曹ノ處分ニ委タヌ。以  
ツテ飲ミ以テ賭シ以テ妓ヲ買ヒ請フ馬ヲ用キ以テ其樂  
ミヲ樂メヨヤト。是ニ於テ儕輩愕然トシテ曰ク。達斯ハ如  
キハハ則チ凡人ニ非ズ。聖人ナリト。錢クモ無クシテ歿ス。  
一二其言ノ如クセリト云フ。

櫻所子曰久。嗚呼達ナル哉。八藏ヤ。凡ソ挽夫春夫ノ人ニ雇  
役セラル、者概不隨テ得レバ則チ隨テ散ズ。人煙稠密ノ  
都會ハ貧民モ亦夥多ナル者。他無シ。裏店横坊皆斯輩ノ窟

窟タラザル無キヲ以テナリ。然レバ則テ、都會ノ繁華十ノ六七ハ、斯輩ヲ以テ組織セラレトイフモ可ナリ。故ニ米價ノ沸騰、疾疫ノ流行アル、其飢渴ヲ訴フル者、多ク、亦都會ヲ以テ最第一トス、即チ得ルニ隨テ散ジ、亦一錢ヲ貯蓄スルコトヲ知ラザルヲ以テナリ。閉ク嘗テ都下ノ職工ハ、經霄ノ金ヲ用キザルヲ以テ、江戸兒ノ氣家ヲ誇ヒリト、然ルニハ職眼ニ一丁無ク、亦理ヲ知り道ヲ學ブモノニ非ズシテ、善ク浮疎ノ風習ニ薰染セラレズ、儉輩ノ訾笑ヲ顧ミズ。殆ソド下愚ノ格ヲザル者ニ似タリ。而シテ其平素貯蓄スル所アルヲ以テ、堅ニ謝シ微ヲ埋ムノ費ヲ辨スルニ餘リアルヲモオラス、其餘澤以テ儉輩ニ及ボスニ足ル、且ツ夫ト自ラ起タザルヲ知ルヤ、平生愛玩スルニモ似ズ。高モ執

着ノ念無シ、恰モ岡野左内ト其臭味ヲ同フスル、亦身トシテ、殺也ノ一語、其胸襟ノ洒々落々タル、左内ガ舊券ノ得ト、モモ、其如ニ付ヒシニ譲ラズ、視ヲ得ルニ隨テ散ジ以テ口腹耳目ノ嗜好ヲ遂ゲテ、儲フルヲ知ラス、疾病事故アルニ際シ、醫藥ノ求ムベキ無ク、埋葬吊祭ノ費無キハ貧民ノ常態ニノ、日夜逐々トノ利ヲ趁ヒ、銖積寸累シ半錢以テ人ニ貸サス一毛以テ人ヲ利セズ、口ニ肉ヒズ、體ニ期ヒズ、冥然トシテ貸財ヲ守リ、以テ生涯ヲ送リシ、孰ヲ憂スルニヤル迄顧惜眷戀ノ措カザル者ハ、守錢奴ノ情況ナリ。ハ歳ヲシテ此貧者ノ散シテ畜フルヲ知ラザルト、守錢奴ノ積ムテ用ユルコトヲ解セザルトノ情狀ヲ評セシメバ、必ズ曰ハシ、痴ヲ醫スルノ藥無シト、噫、

第二十七 狂生田某ヲシテ禍ヲ免カレシメシ事

狂生某トイフ者アリ、何許ノ人ナルヲ知ラズ、或ハ曰フ陸  
奥ノ人ナリト、幼ニシテ父母ヲ喪ナレ、依托スルニ門無ク、  
東西流離スル十數年、適ネク大都通邑ヲ適履シ、餓ユレハ  
則チ人家ニ沿テ酒食ヲ乞フ、醉ヘバ則チ踴躍歌呼ス、人呼  
テ狂生トナス、因テ自ラ以テ名トス、年二十江戸ニ入テ昌  
平賣ノ傍ニ露卧シ、日ニ絃誦ノ聲ヲ聽キ、欣然トシテ神會  
スルノ色アリ、一旦翻然トシテ人ニ語テ曰ク、我モ亦人ナ  
リ、四肢五官一モ具ハラザルコ無シ、天ノ我ニ與フルコ渥  
キ是ノ如シ、我ハ則チ狂生ヲ以テ終フル、可ナランヤト、乃  
チ巨室大賈ニ干謁シ、薪水ヲ操ルヲ請フ、人ミナ生ノ狂ヲ  
恐レ敢テ許サズ、生嘆ジテ曰ク、都人士ハ皆盲聾ノミト、去

テ常野ノ間ニ彷徨ス、野刈守都宮ニ、豪農田某トル者、  
除タニ會ス、主翁出テ、通ヲ督ス、終チ一人ノ蓬頭藍面、  
羸骨立セルモノ、其後ニ從フ、大ニ駭キ以テ窮蹙トス、叱  
シテ曰ク、去レ其人、一歎一笑シテ曰ク、嗚呼、我瘁ム、宜ナル  
カナ翁ノ目スルニ窮鬼ヲ以テスル、翁モ亦禍福轉換ノ機  
ヲ知ルカ、窮極テ富生シ、富極テ窮來ル、然ル代ハ翁ノ富未  
ダ恃ムベカラズシテ、我ノ窮悲ムベキニ非ズ、天下固ヨリ  
其服ヲ繼縷ニシテ、其心ヲ錦繡ニシ、形チノ瘦セテ智ノ肥  
タル者アリ、其皮ヲ豹ニシ、其貨ヲ羊ニシ、財ニ富チテ才ニ  
貧キ者アリ、今翁ノ眼、表裏ヲ辨セズ、人鬼ヲ判セズ、惑ヘル  
ノ甚キ者ト謂フベシ、翁モ亦聾盲ノ徒ナル哉ト、ミサニ清  
歌シテ去ラントス、翁其言ヲ奇トシ、引テ與モニ歸ル、其門

及、翁大呼シテ曰ク、我福神ヲ得タリト、家人皆出迎  
シバ、則チ乞食狂生ナリ、蓋シ生屢米錢ヲ翁ノ門ニ乞フ、而  
シテ翁ニ毎ニ深奥ニ在テ知ルニ及バサリシナリ、家人交  
翁ヲ叱ガム、翁可カスシテ曰ク、彼レハ佯狂者ナリ、豈ニ真  
ニ乞食ノ徒ナランヤ、苟モ我カ用ヲ爲サバ、以テ我家ノ福  
ヲラズヤト、是ヨリ辱ク及食ヲ給シ、之ヲシテ諸雜事ヲ理  
メシム、生日夜拮据シテ、精緻人ニ過ク、事遲滯無ク、家政整  
肅ス、隣里相告ゲテ曰ク、田氏佳僕ヲ得タリト、是時ニ當リ、  
幕政衰頹シ、紀綱弛解ス、内憂外患熾ヒ起ル、之ニ加フルニ  
年穀實ラズ、物價昂騰シ、飢饉ニ苦ムノ民所在ニ盜ヲ爲シ、  
四境騷然タリ、生亂形已ニ成ルヲ知リ、一日主翁ニ説テ曰  
ク、禍亂ノ機、朝夕ヲ測ラズ、而シテ主家素封ヲ以テ、聞ハ、

ク速カニ、財畜ヲ散ジ、テ恩義ヲ郷人ニ結ノ、ベヤト、夫レ  
一、膏ハ、肉ハ、粟ハ、シテ空、突ニ在ル、貪蠅、蟻、相聚テ之ヲ爭ハ、  
ハ、糜爛セリル、下、無シ、苟モ主家ニシテ孤立セバ、猶ト、  
ノ委テ、庭ニ在ルガゴトシ、郷人ノ貪蠅、蟻、タラサナ  
欲スレト、得ベケンヤト、主翁頗ル悟ル、乃チ寶券數百、金千  
圓、散十斛ヲ散シ、以テ窮孤ヲ賑恤ス、幾クモ無ク、水ハ、  
田、實、糶ヲ唱ヒ、兵ヲ常野ノ間ニ起ス、勢ハ、風雨ノ如ク、豪  
農大賈、多ク劫掠セラル、而シテ田氏獨リ德望ヲ以テ免カ  
ル、翁大ニ喜ムテ曰ク、狂生ハ果シテ是レ我カ家ノ福神ト  
リト、

櫻所子曰ク、今ノ所謂貨殖家、多クハ刻薄ニシテ、厘毛ノ未  
判ヲ爭フヲ知ルト雖、慈善ノ何事タルヲ知ラス、其智若



竹槍隊ヲ成シテ其家ヲ圍ミ、吶喊火ヲ次チ、驚走狼狽スル所ノ主翁及ビ家族七人ヲ捕ヒ、業捨亂刺シテ悉ク之ヲ殺シ、踊躍シテ去ル。官即チ其罪魁十人ヲ逮捕シテ、其間ニ碓ト、夫レ衆ヲ煽動シテ人ヲ殺シ家ヲ燬ク、其首魁タル者固ヨリ嚴刑ヲ免カル可カラザルヲ知ラン、而シテ斷守此慘虐ノ事ヲ爲シ、各自ノ生命ヲ愛シマス、亦其父母妻子ノ悲痛ヲ顧ミサル者、豈ニ故無シトセンヤ、必ヤ平素ハ所爲富有ノ力ヲ以テ、貧人ヲ待ツハ、太ダ刻薄ナリシ、一激スル所アルニ由ルナル可シ、此ノ行跡ヲ以テ、前ノ事實ト對照セバ、猶ホ越歷氣ノ消積ニ極ノ如シ、仁暴ノ變化シテ、殃福處ヲ異ニスルヲ視ルニ足レリト、此言固ヨリ傳聞シテ耳成ニ存スル所ヲ記スルノミ、其年時ト姓氏ト、如キハ、既

ニ遺忘セリ、然レル今田某カ徳望ヲ以テ、藤田曠、五拾ヲ免カレ、果シテ狂生ノ福神タリシトテ、驗知セシノ條ヲ録スルニ及ビ、讀者ヲシテ温公カ陰徳ヲ冥々ノ裡ニ積ムヲ以テ、福祉ヲ子孫ニ貽スノ長策トセシ言ノ妄ナラザルヲ感發セシムルノ一端ニ供センガ爲メ、茲ニ附記ス、知ラズ、世ノ富者、果シテ首肯スルヤ否ヤ、

第二十八 新見屋新右衛門火女ヲ救ヒ禍ヲ免ガレシ

事

新見屋新右衛門ハ、野刈宇都宮ノ珠鑽ナリ、未ダ其姓ヲ詳カニセズ、億料壽中、大ニ殷富ヲ致ス、已ニ老タリ、親戚之ヲ規シテ曰ク、今乏シキ所ノ者ハ財ニ非ス、智ヲ役スルヲ度ニ過グルハ、攝生ノ道ニ非ス、請フ意ヲ商事ニ絶チ、優遊以

テ歳ヲ卒ヘヨト。新右衛門曰久。大ニ善シ。但、今秋將サニ大  
瀧利ヲラントス。見ル所決シテ錯謬セズ。此一着ヲ了シテ  
後チ。局ヲ斂メテ間ニ就カント。乃チ江戸ニ抵リ事ニ從フ。  
果シテ數百金ヲ覆ス。笑テ曰ク。吾少ナリ。老ニ至ルマデ。碇  
碇トシテ。賞ニ服ス。未ダ嘗テ。故意興ヲ遣ラズ。吾將サニ畢  
世ノ愉快ヲ極ス。索ヲ垂レテ還ラントス。乃チ書ヲ報ジ。親  
姻故舊ヲ招キ。泣シ以テ花ヲ賞シ。月ヲ弄シ。演戲ヲ觀。此里  
ニ遊ブ。往々所絲肉涌起シ。銅臭人ヲ醉ハシム。一日永代橋  
ヲ過グ。時ニ晚間。五色辨ゼズ。人アリ將サニ踊ラ水ニ投ヒ  
トスル者ノ如シ。電行シテ之ヲ掣ル。必女ナリ。將サニ脱  
救セントス。緊抱シテ放タズ曰ク。何ノ故ゾ。泣テ曰ク。理死  
セサルヲ得ス。願クハ遣放セヨト。之ヲ諭シテ曰ク。謗一曰。

久藤猶ホ相謀ルニ足ルト予豈勝ニ勝ラスヤ。高ノ其實  
語ヲサルト乃チ謝シテ曰ク。妾幼ニシテ父ヲ喪ヒ。家道稍  
落ツ。母ハ親家ニ寄食シ。妾身ヲ鬻グ。コト五年。某家ノ婿ト爲  
ル。沫淋注翁ノ命ヲ奉シ。金三十兩ヲ齎ラシ。諸レヲ某氏ニ  
致ス。途ニシテ之ヲ失フ。索搜スレモ得ズ。賙ハニカ資無シ。  
實ニ告ケンカ。家貧シケレバ必ス曰ハニ。粗糲<sup>粗糲</sup>此  
經事ヲ作スト。身死スレハ則チ白カナリ。所ヲ決スル所以  
ナリ。但明年期滿シ。阿母之ヲ待ツ。日年ノ如シ。妾ニシテ死  
ス。阿母ノ嘆悲如何ト爲ルヤ。涕泗雨ノゴトク下ガル。新右  
衛門妻方之ヲ諭シ曰ク。三十金生ヲ買フハ。妾ニ吾將サニ  
之ヲ買ハントスト。與フル。一。金ヲ以テシ。且ソ。教ヘテ曰ク。  
速カニ還小事ニ託シテ。遲緩ヲ謝セヨト。女感涙固辭ス。強

テ之ヲ與ハ姓名里居ヲ問ハバ笑テ曰ク余ハ田舎翁ナリ  
ト告ケズシテ去ル後チ數年、親家年以三輩ヲ望ハテハ幡  
祀事ヲ深川ニ觀ル山車巧ヲ爭ヒ歌舞新ヲ競ヒ觀ル者都  
鄙ヲ傾ク永代橋ニ至ルニ及ビ觀者填溢シ肩相摩シ踵相  
蹠シ按地ニ着カズシテ自ラ進退ヲ爲ス滿街狂ノコトシ  
時ニ女テリ來テ袖ヲ牽テ語ル新右衛門曰ク似タル者ヲ  
誤認セシニ非ルカト肘ヲ奮テ顧ミズ女墜抱シテ放タズ  
新右衛門大ニ怒リ喝シ且ツ曰ク何ゾ不敬亡狀ナル年以  
輩其レ我ヲ何トカ云ハント時方ニ喧聒言語達セズ唯勿  
動キ色變スルヲ視ルノミ女カヲ極メテ牽引ス遂ニ年以  
ト相失シ橋側ノ茶肆ニ入ル女謝シテ曰ク君豈ニ我が思  
人ニ非ズヤ某年月日此橋ヒ女ヲ救ヒシ事ヲ記スルヤ否

ヤト新右衛門頭ヲ傾テ擗眉シテ曰ク今ニ五年因テ社事  
ヲ叙シ曰ク妾選リ實ヲ以テ主翁ニ復シ金ヲ奉シテ之ヲ  
還ヘス主翁嗟之ニ久クシテ曰ク塗人尚ホ然リ吾何ゾ  
其金ヲ受クルニ忍ビヤ然リト雖モ未ダ之ヲ返スニ由  
シアラス吾將サニ櫛ニ藏ノ以テ俟ツアラントスト期滿  
ルニ及ビ其金ヲ把テ妾ニ賜ヘ曰ク用斗以テ母子生活ハ  
資ト爲シ永ク其禍患ヲ存セヨト推辭スレモ允リズ乃チ  
拜受シテ歸リ具サニ阿母ニ告ゲ相謝シテ泣ク當時自ラ  
誓テ曰ク此恩ヲ忽略スルハ人ニ非ズ昏黑間眸ヲ凝ラシ  
テ諦視シ祖風歎年齒ヲ認メ之ヲ心肝ニ刻シ常ニ神佛ヲ  
祈リ曰ク一タビ其人ヲ觀ロク此恩ヲ謝スルヲ得ン何許  
ハ人ナルヲ知ラズト雖モ安シク知ラン親故ノ此間ニ在

ルアツテ、重テ天橋上ヲ經過スル無キコトヲ、因テ阿母ト與  
モニ謀リ、賜フ所ノ金ヲ以テ、茶肆ヲ此ニ買ヒ、茶ヲ賣リ以  
テ活ク。且、母父ヲ注目シテ之ヲ求ム。今ニ至テ果シテ之ヲ  
觀ルコト得タリ。何ノ喜ビカ屬シニ尚ヘシ。且ツ泣キ且ツ語  
ル。其妻父、眼ハ赤ク、ハニ、橋身斷裂シ、相推シテ、溺ル。須臾ニ  
溺ル。浮死、以テ、掩テ踏ハ、示清ル。ハニ、勢ヲル所ノ、三人モ亦  
溺中ニ在リ。新右衛門、獨リ免カル。ハニ、得タリト、則チ文政  
四年丁卯、秋八月十五日、事ナリ。  
櫻所子曰ク、白居易ノ詩ニ、貧始覺錢靈、句アリ。世上一擲  
萬金、情ヲ舍ムテ、片言無キノ豪富アリト雖モ、亦僅カニ數  
千金若クハ數金、爲メニ。父母凍餒シ、兄弟妻子離散シ、身  
容ル、地無ク、十尺ノ布、以テ其頸ヲ繫シ、數寸ノ菜刀、以

テ其胸ヲ割テ死スルニ至ルアリ。誰カ豈ニ之カ爲メニ測  
然タラザフンヤ。然リ而シテ、世ノ浪費ヲ爲ス者、千金ヲ抛  
チ、而シテ券ヲ斗鐘ニ折ク能ハザル。滔々皆是ナリ。新右衛  
門卒然トシテ三十金ヲ路人ノ爲メニ抛ム。以テ其死ヲ拯  
フ。真ニ水女ノ爲メニハ、神靈音、ナラザルノ恩ヲ施マシ。而  
シテ德ヲ吞ムテ口セザル。豈剛隱ノ至レル者ニ非ズヤ。亦  
頼テ以テ深淵ヲ免カル。知ル可シ天ノ報德、昭然トシテ分  
明ナルコトヲ。彼主翁ナル者、亦厚誼ニ感奮興起シ、金ヲ推シ  
テ之ニ與フル者。及ビ女ノ日夜感刺、用意周到、久フシテ衰  
ヘザル者。皆頑ヲ醒シ、懦ヲ立ツルニ足ル。抑ヒ米賈ハ、日ニ  
騰輸ヲ争フ。賭ト味ナル無キ者ナリト雖モ、新右衛門カ女  
ノ生命ヲ買フ、餘カアル者他無シ。其少ヨリ老ニ至ルマ

テ、既ヤトシテ賈ニ服シ。故意興ヲ遣ルコトヲ敢テセザルニ  
由ル。若シ夫レ其勤メニ倦メバ。則チ故意興ヲ遣ルヲ常  
スル輩。叢底空器シ。親姻故舊ノ急ヲモ救フ能ハス。何ソ患  
ヲ路人ニ及ボスノ餘裕ヲランヤ。嗚呼。財財ヲ用タル以テ  
人ヲ活スベク。以テ人ヲ殺スベク。以テ財財ハ積スルノ富  
ヲ爲スベク。以テ勇士猛卒ヲ使役スルノ強國タル可シ。而  
シテ其靈ニシテ神ナル作用ハ。赤貧者ニシテ。後チ明驗ニ  
得ルモノトス。此神ニシテ靈ナル貨財ヲ以テ嗜欲。爲メ  
ニ徒消スルヲ知テ。産業ヲ興シ。學藝ヲ研シ。窮乏ヲ賑救ス  
ルヲ用ニ供シテ。功益アルヲ知ラサル者。恰カモ節泉太阿  
ヲ以テ菜根ヲ截ルガ如シ。思ハズンバアル可カラサルナ  
リ。

第廿九 山中某賑恤ヲ以テ老境ヲ慰メタル事  
下、藜ノ人山中某。貧賤ノ家ニ生レ。辛苦勤勉シテ家ヲ興  
ス。初メ四五圓ノ資本ニ過ギス。而シテ齡年順ニ盡シトス  
ルニ至テ。家産益昌ニシテ。積累巨萬ニ至ル。其人ニ貧與ス  
ル者。幾萬金ナルヲ知ラス。利子歳入。亦數千金某。人ニ語テ  
曰ク。資産既ニ足ル。又何ゾ殷殖ヲ求メシヤ。心ヲ賑窮ニ存  
シ。以テ老境ノ娛樂ト爲ス可キノミト。  
櫻所子曰ク。世ノ暴カニ富ム者ヲ視ルニ。初メ以爲ク千金  
ヲ獲レバ。則チ足ルト。既ニ千金ヲ獲レバ。則チ萬金ヲ期シ  
萬ニ至レバ。則チ億ヲ期ス。路邊ノ欲。成止スル所ヲ知ラズ。  
念ヲ累サネ慮リヲ積ミ。一身恆ニ利ノ驅役スル所トナリ。  
安キ時アルコト無し。何ゾ人ノ窮乏ヲ賑恤スルニ進アラシ

ヤ而シテ俄然トシテ産ヲ傾クレバ、憂心快鬱トシテ解ク  
ル時無久、然ラザレバ死シテ蕩子ノ為メニ棄散セラレン  
ル。是レ猶小富ムト雖也、貧シキガ如シ、自ラ足ルコヲ知  
テ心ヲ取贖ニ存スル、山中氏ノ如キ、富有ニ素シテ富有ヲ  
行フ者ト謂フ可キナリ。

第三十 菊池孝兵衛儉朴ニシテ窮乏ヲ憫ミシ事

菊池孝兵衛、野列宇都宮ノ商賈ナリ、家號ヲ佐野ト曰フ  
資財饒裕ニシテ、支店ヲ各處ニ置ク。孝兵衛又トナリ、瀟洒  
吟城ヲ設ケテ、賓客堂ニ構テ、詩酒談笑、器モ陳色無シ、然レ  
凡自ラ奉スル儉朴ニシテ、其常用ノ銀具、概テ漆器ノ粗穢  
ナル者タリ、其無用ニ奢ラザルハ、率チ此類ナリ、嘉永癸丑  
己後、國家多故、幕府政ヲ失フ、孝兵衛以爲ク世變測ルベカ

ラス、田圃ヲ開キ、桑麻ヲ植シ、以テ安身ノ計トシ、其爲  
計ト乃チ野頸川ノ沿岸ノル、岡本桑島ノ兩村、岸基ノ内地  
ヲ相テ、草萊ヲ披キ、溝洫ヲ疎シ、窮民ヲ拯シ、糧食及ビ農具  
ヲ支給シ、業ヲ安政乙卯ニ起シ、エヲ文久辛酉ニ竣ハル、良  
田ヲ得リ二百八十町、民家ヲ得ル五十四戶、人ヲ得ル三百  
三十七口、號シテ菊池村ト曰フ、孝兵衛、其慷慨國ヲ愛ト、  
數千金ヲ費シテ、四方有志ノ士ニ給シ、遂ニ大橋順藏等ト  
獄ニ下タルニ及マリ、孝兵衛天資忠厚ニシテ、窮乏ヲ憫  
ム、飢渴ノ飲食ニ吝ケルカ如クス、其手紙、晝ニ在ル、夜ニ來  
シ、僕ヲ率キ、潛カニ貧戶ヲ窺ヒ、金ヲ投シテ去ル、人其誰カ  
ルヲ知ラズ、此ハ如クスル者數ナリシトイフ、  
櫻所予曰ク、富商大估ニシテ、詩酒談笑ヲ好ム、孝兵衛ノ如

キ者不則ナ之レアリ。其自ラ奉ズル儉朴ナル者兵衛ノ如  
キ者亦聞之レアリ。而シテ豫メ世變アルヲ知り、一身ノ計  
ヲ爲シ、若干ノ窮民ヲシテ産業ヲ得セシメ、又以テ國家  
爲メニ一利ヲ起スガ如キハ、商估中見ル能ハル者タリ、  
況ヤ窮乏ヲ憫恤スル、飢渴ノ飲食ニ於ケル、力如キ慷慨國  
ヲ憂ヒ、有志ニ資給スル如キニ於テヤ、産ヲ興シ業ヲ殖  
スルニ及セタル者、今日其人ニ乏シキニ非ルベシト雖ヒ、  
豪商大估中、果シテ孝兵衛其人ノ、衆美ヲ兼テ備ラルガ如  
キ者アリヤ。茲シコレアラシ、未タ之ヲ見サルナリ。  
日第三十一 川北梅山儉素自守ル事  
梅山ハ伊豫ノ人ナリ、夙トイ學文章ヲ以テ、拙堂ノ門ニ  
名アリ、其學在ル數年、風晨月夕、興來レバ、則テ友ヲ呼ビ、

園蔬ヲ摘ミ、糠粥ヲ烹テ、同ク樹ミ議論ヲ上下ス、後テ津藩  
ノ教官トナル、維新ノ始、徵サレテ史官ニ任ス、其故舊之  
ヲ聞キ以爲ク、必スヤ石樓織柱、婢妾前ニ滿チ、賓客沓至シ  
テ門市ヲ成シ、復タ清儉ノ舊梅山ニ非ルベシト、而シテ一  
日其家ヲ過グレバ、則チ門庭蕭然トシテ、人跡ヲ絶ス、梅山  
到吟ハ、聲ヲ聞キ、驚喜出テ迎ヒ、手ヲ把テ、堂ニ上ボル、藺席  
筍燭圖書山積、宛然タル儒士ノ居ナリ、其酒ヲ呼ブ、小鮮  
半盃、蘇菊清盤、供給淡如ナリ、乃チ曰ク、吾毎オニ退食、賓客  
ヲ謝シ、儉素自ラ養フ、蓋シ舊ヲ忘レサルノミ、是ヲ以テ俸  
餘積ム所、亦以テ殘年ヲ養フニ足ルト、是ニ於テ其前日想  
像、梅山ヲ視ルノ淺キヲ悔コタリシト、梅山唯家ヲ治ムル  
ハ儉素ノミナラス、公ニ奉ズル亦然リ、其太政官ニ在リ、官

中ノ會計ヲ總ブルヤ、冗費ヲ省フキ用度ヲ節シ、竹頭木屑  
ト雖氏亦徒ラニ用キズ、同僚其能ク職任ニ勝ユルヲ稱セ  
リトイフ、明治十年ノ春、朝廷經費ヲ節シ、官員ヲ減ク、梅山  
與カレリ、乃チ人ニ謂テ曰ク、吾老テ勤ノニ倦ム、今日綬ヲ  
解ク、實ニ優恩タリ、宜ク文酒風流ヲ以テ斯生ヲ終フベシ  
ト、其園中ノ書樓ヲ名ケテ夢清トイフ、蓋シ姚武功カ、侍官  
夢正清ノ句ニ取ルナリ、

櫻所予曰ク、王政維レ新タニシテ、封建ヲ廢シテ郡縣トシ、  
武家ノ常職ヲ褫キ、賦兵ノ法ヲ定メラレシヨリ、恆在無キ  
ノ士族所在ニ之レアリ、其官途ニ奔競シ、門ヲ掃ヒ塵ヲ拜  
スルモノ、千百輩ナラズ、既ニ其攀援シ得ルニ至テハ、衣服  
居宅ヲ華美ニシ、聲色耳目ヲ悅バシメ、奢侈至ラザル無ク、

一朝之ヲ失ヘバ、怨ヲ凍餓ヲ支フルニ術無ク、耳聾目眩、尾  
ヲ搖カシテ憐ミヲ乞フ者アリ、悲憤慷慨急カニ賈生ノ口  
吻ヲ學ッテアリ、亦醜ナリ、ストセズ、而シテ櫻ヲ濯ヒ冠ヲ拭  
ケテ後チ、悠游自適、風月ヲ嘲罵シ、山水ニ吟嘯スル、梅山其  
人ノ如キ者、果シテ幾人カアリシヤ、思フニ梅山カ此ノ如  
クナルヲ得ル者ハ、是レ平素儉朴、自ラ守ルノ致ス所ニシ  
テ、且タケ故ヲ以テ踏襲シ得ベキニ非ルナリ、梅山カ養ヲ  
所ニモ求、亦貴フベキ所アリ、重ンズベキ所アリ、トウマス  
ベイン氏曰ク、人ノ生涯ヲ送ル、恰モ數千里外ニ旅行スル  
カ如シ、衣食其他、渾テ行旅中、能ク耐工得ベキヲ以テ度ト  
ス、富ヲ得レバ、忽チ驕ル、貧ニ至レバ、啼哭スル者、必竟生涯  
三萬六千日ノ行旅中、此ノ如クニシテ能ク堪工得ヘキヤ

否ヤヲ。謀メ。計ラガル。ニ。ヨル。ト。梅山能ク此理ヲ知ル者ト  
謂フベシ。今日官途ニ在ル人。果シテ官ヲ休メテ清養ヲ結  
ズ。梅山ノ如クナルヲ期スルヤ否ヤ。我ガ知ル所ニ非ス。  
第三十二、水村成壽居ヲ移マ事

水村成壽ハ、茨城縣治ノ南六里竹原邑ノ人ニシテ。邑ノ著  
姓タリ。頗ル學問ヲ好ミ。汎ク書史ニ通ス。明治某年。居ヲ其  
宅ノ東ニ移ス。其地爽塏ニシテ。揚子河。下モ。水田數十  
頃アリ。長林之ヲ遠クル。土膏地沃。景致幽邃。真ニ隱士  
ノ愛玩ニテ忘ル。能ハザル所ナリ。人アリ成壽一語ヲ曰  
ク。子固ヨリ林泉ニ嘯傲スルノ士ニ非ズ。且ツ其故宅ハ。宥  
操大宇。閣闌。欄。在リ。何爲レ。之ヲ去リ。而シテ明ニ新  
居ヲ營ハヤ。成壽曰ク。僕ガ家世田八十石アリ。稼穡ノ則期

スベキナリ。本邑ノ地。東京往來ノ縣道ニ係ルヲ以テ。風俗  
情。感。之。ニ。加。フル。ニ。妓。館。アリ。絲。竹。喧。譁。ス。僕。此。間。ニ。居。ル。使  
役スル所ノ僮。僕。皆。淫。靡。ニ。習。レ。敢。テ。カ。ヲ。南。畝。ニ。竭。サ。ズ。故  
ニ。居。ヲ。此。ニ。遷。シ。躬。親。カ。ラ。耕。鋤。シ。僮。僕。ヲ。淬。厲。シ。彼。ヲ。シ。テ  
粉。華。ヲ。慕。ハ。シ。メ。ザ。レ。バ。則。チ。狗。頭。ノ。富。致。ス。可。カ。ラ。ス。ト。雖  
此。倉。穀。ノ。盈。或。ハ。期。ス。ベ。キ。ナ。リ。ト。成。壽。ノ。父。信。義。潛。德。アリ。  
行。義。ヲ。以。テ。郷。里。ヲ。服。ス。性。施。與。ヲ。好。ミ。粟。ヲ。鄰。閭。單。寡。ナ。ル  
者。ニ。貸。シ。テ。其。恩。ヲ。錄。セ。ズ。尤。モ。貧。ニ。シ。テ。債。ヲ。欲。ハ。ザ。ル。者  
ハ。亦。之。ヲ。責。メ。ズ。邑。人。之。ヲ。仰。グ。テ。父。母。ノ。如。ク。ス。是。ヲ。以。テ  
家。贖。財。無。ク。時。ニ。或。ハ。之。ヲ。人。ニ。乞。貸。ス。ル。ニ。至。ル。足。皆。テ。門  
ヲ。出。デ。ス。暇。ア。レ。バ。則。チ。兀。坐。書。ヲ。讀。ミ。以。テ。樂。ミ。ト。爲。ス。其  
祖。信。成。亦。財。ヲ。惜。マ。ズ。以。テ。郷。人。ノ。急。ヲ。濟。ヘ。リ。ト。世。人。成。壽

力勉勵彼方如クナルヲ見、相告ゲテ曰ク、其父祖ハ富ナル  
所徳ニ在テ財ニ在ラズ、成壽果シテ素封ヲ致ス、所謂陰徳  
アル者子孫必ズ興ル者是ナリ、而シテ諺ニ云フ、其父苦辛  
シ、其子逸樂シ、其孫乞使ストハ、富人時ム可カラザル以言  
ス、成壽ハ如キ、然ク富ヲ致シ、而シテ其家風ヲ墮ス無シ、是  
則チ君子富ムテ其徳ヲ行ハ、者其富長ク保ツ可キ也ト、  
櫻所子曰ク、歐人ハ諺ニ謂ヘルコアリ曰ク、自由ハ獨逸ノ  
森林ヨリ出ツト、凡ソ人ハ志操氣力也者ハ、富貴利達ニ由  
テ消シ、窮乏艱難ニ由テ長ス、故ニ田舎ニ在テ有為ノ志ヲ  
抱ケハ壯士モ、多年都府ニ住スレバ、平素ノ氣力自ラ消耗  
シテ、優柔便伎ノ風ニ化スル者ナリ、斯弊ハ上増ト下愚ト  
ヲ除クハ外ハ、然シテ免ガルベカラサル者トス、試ニ山

陽報翁カ前兵兒後兵兒ノ二詩ヲ獨較セヨ、其情狀一目レ  
テ瞭然タラン、其前兵兒ハ、腰關ノ秋水ヲ撫ヒ、人ノ頭ヘニ  
加ヘントスルノ意氣ヲ有シ、其後兵兒、即チ都門ニ留寓セ  
ル薩兵兒ハ、馬ヲ以テ妾ニ換エ、膾肉ヲ生セルニ非スヤ、故  
ニ麗衣鮮食、名妓艶妾ハ、氣力ヲ斬伐スルノ利斧ニミテ惡  
衣澁食、山林田野ハ、氣力ヲ培養スルノ肥糞ナリ、況ヤ繁盛  
ノ都府、關熱ノ世界ハ、車馬絡繹、黃塵天ニ漲リ、利名ニ奔競  
シテ、其思想ヲ鍛鍊スルニ暇マ無シ、田舎ハ間靜ニシテ、總  
テ書ヲ讀ミ、理ヲ思ヒ、術業ヲ修ムルニ宜シ、亦其鮮麗華美  
艶羨スベキ者ヲ見ザルヲ、以テ、自ラ赫刺ニ奔競スルノ念  
少シ、視ヨ古來都會ニハ、人材ノ生マルコ希ニシテ、英俊ノ  
士、多ク僻土ニ出ルコヲ、之ヲ以テ田舎ヲ出テ、都府ニ來

往六の者、概ネ其黄塵ニ染ミ、人海ニ漂フノ久シキニ至レ  
ハ、自然ニ樸樸、浮薄ニ化レ、所謂江南ノ橘、江北ニ移セ、ハ  
穀ニ化スルノ類ナリ。是衣食住居ノ華奢ナルニ至テハ、都  
會同ヨリ田舎ニ勝ナルト雖、學術技藝ヲ鍛鍊スルハ、田  
舎ニ若カザル所以ナリ。世ノ有爲ノ志ヲ抱クノ士ニシテ  
都會ノ浮華ヲ慕ヒ、貴重ノ氣力ヲ消費セバ、又一便佞狡猾  
ノ市僧トナラン。晉ノ陶潛ハ、松菊ノ族、蕪ニ属スルヲ思入  
直ノ儉父タラン。晉ノ陶潛ハ、松菊ノ族、蕪ニ属スルヲ思入  
我ハ氣力ヲ消耗コト懼ル、ナリ。珠ニ恠ム、少年書生、學術未  
々熟セズ、却支猶未乏シキニ非ルモ、徒ニ都府ノ浮華ヲ慕  
フガ爲メニ、負笈播磨、御關ヲ離レテ都門ニ來リ、其勤意ナ  
ク、萬里海ニ航シ、英京併都ニ留學スルモ、アルニ至ル

而シテ始メ來ルマ、繁華鬧熱ヲ視テ、心悖シ目眩スルカ如  
ク而シテ月日ヲ經ルニ隨テ、知ラズ識ラズ、浮華ノ習風ニ  
染ミ、研學ノ資モ遂ニ聲色ノ爲ニ蕩盡シテ、良師益友ヲ求  
ムルノ力無ク、業ハ半途ニシテ廢棄シ、亦鄉里ニ歸ルノ而  
目無ク、都門ニ留ラントスルモ、挂玉ニ察ムヲ奈何トモシ  
難ク、平生ノ志操ハ之ガ爲ニ屈撓シ、餬口ノ計ヲ得ルヲ以  
テ足リトシ、或ハ微官ヲ甘ムジテ簿領ニ齟齬シ、或ハ厩  
輿僮僕トナリテ、奔走ニ衣食シ、人生研學ノ好期ヲ空過ス  
ル、不幸ニ陷ル者、多カラズトセズ。此ノ如キハ則チ、粉華  
ヲ慕フガ爲ニ、生涯ヲ誤ル者ト謂ハサルヲ得ズ。夫レ都門  
ハ術業老熟ノ士ガ、名ヲ成シ身ヲ立ルノ地ト云フベキモ、  
決シテ少年書生ガ業ヲ成ヌニ適スルノ地ニ非ズ。豈嘗ニ



